

第 10 章. グリット（やり抜く力）不平等

松岡亮二

1. 社会経済的地位とグリット（Grit）

近年、学力で示される認知能力だけではなく、非認知能力が教育達成に与える影響の重要性が指摘されている（中室 2015）。本章は其中でも、教育達成などに繋がる「やり抜く力」——グリット(Duckworth 2016, Duckworth, Peterson, Matthews, Kelly. 2007 など) に着目する。

根気強さと関心への一貫性で指標化されるグリットは日本の社会的文脈においても重要と考えられるが、果たして「誰」がグリットを獲得しているのだろうか。非認知的な特性である学習能力（学ぶ意欲、好ましい学習習慣、主体的な学びを始動する力、どう学ぶかを学習する力（Kariya 2009, p.94））を分析した研究（荻谷 2008, Kariya 2009）は、出身家庭の文化的階層グループによって小学校 5 年生の時点で学習能力が異なることを示している。また、高校 1 年生を対象とした PISA を用いた研究（Matsuoka 2013）によると、社会経済的地位、性別、学力を統制しても、この学習能力が高いと塾や自習を含む通常授業外学習を行う傾向にある。より近年の中学 3 年生の全国データを用いた分析（松岡 2016）でも、出身家庭の社会経済的地位・非認知特性・教育指標の関連が示されている。よって、認知特性である学力のみならず、非認知特性であるグリットについても出身家庭の社会経済的地位による差があると推測できる。換言すれば、比較的平等な義務教育制度を持つとされる日本においても、出身家庭の社会経済的地位によって非認知特性獲得に資する経験量が異なり、グリット格差が生じていると考えられる。そこで本章では、一行政域内の児童・生徒の出身家庭の社会経済的地位とグリットの関連——「やり抜く力」不平等について実証的に検討する。

2. 使用変数

Duckworth による「8- Item Grit Scale」を翻訳した「Grit Scale 日本語版（子ども版）（西川，奥上，雨宮 2015）」に基づいた質問項目に対する回答を使用した。生徒・保護者票の双方に含まれているが、本章では生徒の自己評価よりは客観的だと考えられる親の回答を用いてグリットを指標化した。「始めたことは何でも最後まで終わらせる」や「新しい考えや計画を思いつくと前のことから気がそれてしまう」などの項目に対する「あてはまる」から「あてはまらない」までの 5 点尺度を肯定的な

表1 グリットの記述統計(親票)

	度数	最小値	最大値	平均	標準偏差	歪度	尖度
小学4年生:素点	4483	0	32	17.909	5.067	-0.043	-0.063
標準化	4483	-3.534	2.781	0	1	-0.043	-0.063
小学6年生:素点	4181	0	32	18.766	5.157	-0.068	-0.153
標準化	4181	-3.610	2.580	0.020	0.997	-0.068	-0.153
中学3年生:素点	3531	0	32	18.633	5.412	-0.119	-0.123
標準化	3531	-3.443	2.470	0	1	-0.119	-0.123

意味になるよう0から4に再コードし、8項目について合算した。記述統計は表1の通りで、親評価によるグリットが高い児童・生徒(以下、生徒で統一)もいれば、低い生徒もいる。小学校4年生の時点で、すでにグリット格差が確認できる。

「誰」が高いグリットを保持している(と親に評価されている)のか明らかにするため、本稿では社会経済的地位を代理的に示す変数などを作成し、表2~4に変数の頻度をまとめた。性別以外はすべて親票の回答を用い、コーディングは下記のように行った。

性別: 女性を示すダミー変数。

母学歴: 社会経済的地位を示す主要変数として親票の中でも欠損が少ない母学歴を用いた(父学歴、世帯年収の順に欠損が増える)。最終学歴が短大・大学・大学院であるケースは1、それ以外は0とした。

家にある本の冊数: 社会経済的地位の代理指標として用いられる家庭の蔵書数。

コンサートに連れていった: 「去年一年間をふりかえって、次のことがどのくらいありましたか」の「お子さんをミュージカルやクラシックコンサートに連れていった」に対して「連れて行ったことはない」を0、それ以外(「1年に1回」~「月に1回以上」)を1とした。

読んだ本の内容について子どもと話をする: 「あなたは、一週間のうち、自宅で次のことをどのくらいしますか」の「読んだ本(マンガや雑誌はのぞきます)の内容について子どもと話をする」に対して「ほとんどない」を0、それ以外(「週に1~2日」~「ほぼ毎日」)を1とした。

習い事種類数(学習塾含む): 「お子さんが、現在されている習い事に、すべて○をつけてください」の回答(音楽、習字、スポーツ、学習塾など)を足し上げ、2種類以上は2とした⁽¹⁾。

表2 使用変数の頻度(親票):小学4年生

	度数	%	有効%		度数	%	有効%
<u>生徒水準(N=5578)</u>							
性別(生徒票)				コンサートに連れていった			
女性(1)	2701	48.4	49.4	ある(1)	1558	27.9	34.4
男性(0)	2767	49.6	50.6	ない(0)	2971	53.3	65.6
欠損	110	2.0		欠損	1049	18.8	
母学歴				読んだ本の内容について子どもと話をする			
大卒(1)	2317	41.5	51.5	週1以上ある(1)	1514	27.1	33.7
非大卒(0)	2179	39.1	48.5	ほとんどない(0)	2981	53.4	66.3
欠損	1082	19.4		欠損	1083	19.4	
家にある本の冊数				習い事種類数(学習塾含む)			
200冊より多い	556	10.0	12.2	2種類以上(2)	2491	44.7	54.7
101~200冊	587	10.5	12.9	1種類(1)	1522	27.3	33.4
26~100冊	2065	37.0	45.4	なし(0)	541	9.7	11.9
11~25冊	877	15.7	19.3	欠損	1024	18.4	
0~10冊	460	8.2	10.1				
欠損	1033	18.5					

表3 使用変数の頻度(親票):小学6年生

	度数	%	有効%		度数	%	有効%
<u>生徒水準 (N=5643)</u>							
性別(生徒票)				コンサートに連れていった			
女性(1)	2530	46.2	48.8	ある(1)	1453	26.5	34.6
男性(0)	2656	48.5	51.2	ない(0)	2745	50.1	65.4
欠損	289	5.3		欠損	1277	23.3	
母学歴				読んだ本の内容について子どもと話を			
大卒(1)	2132	38.9	51.3	週1以上ある(1)	1457	26.6	35.0
非大卒(0)	2026	37.0	48.7	ほとんどない(0)	2701	49.3	65.0
欠損	1317	24.1		欠損	1317	24.0	
家にある本の冊数				習い事種類数(学習塾含む)			
200冊より多い	561	10.2	13.3	2種類以上(2)	2137	39.0	50.6
101~200冊	559	10.2	13.2	1種類(1)	1574	28.8	37.3
26~100冊	1857	33.9	44.0	なし(0)	514	9.4	12.2
11~25冊	813	14.8	19.2	欠損	1250	22.8	
0~10冊	434	7.9	10.3				
欠損	1251	22.8					

表4 使用変数の頻度(親票):中学3年生

	度数	%	有効%		度数	%	有効%
<u>生徒水準 (N=4636)</u>							
性別(生徒票)				コンサートに連れていった			
女性(1)	2177	47.0	49.6	ある(1)	857	18.5	24.0
男性(0)	2214	47.8	50.4	ない(0)	2705	58.4	76.0
欠損	244	5.3		欠損	1074	23.2	
母学歴				読んだ本の内容について子どもと話を			
大卒(1)	1619	34.9	46.5	週1以上ある(1)	1195	25.8	33.8
非大卒(0)	1864	40.2	53.5	ほとんどない(0)	2342	50.5	66.2
欠損	1154	24.9		欠損	1099	23.7	
家にある本の冊数				習い事種類数(学習塾含む)			
200冊より多い	477	10.3	13.3	2種類以上(2)	880	19.0	24.5
101~200冊	492	10.6	13.7	1種類(1)	2240	48.3	62.5
26~100冊	1522	32.8	42.5	なし(0)	465	10.0	13.0
11~25冊	693	14.9	19.3	欠損	1051	22.7	
0~10冊	398	8.6	11.1				
欠損	1054	22.7					

3. 分析

3.1. 母親学歴とグリットの関連

まず、使用変数の中でも主要な社会経済的地位の代理指標である母学歴によってグリットに差があるのか確認した。表 5 が示すように、どの学年においても、母親の最終学歴が大卒(短大以上)か非大卒で、親評価による子のグリットに差異が見られる。

表5 グリットの母学歴別平均値(親票)

	度数	素点	標準化
小学4年生			
大卒	2291	18.324	0.082
非大卒	2139	17.447	-0.091
小学6年生			
大卒	2115	19.025	0.070
非大卒	1999	18.487	-0.034
中学3年生			
大卒	1598	19.246	0.113
非大卒	1826	18.184	-0.083

社会経済的地位とグリットの関連をさらに検討するために、各学年において親評価のグリットを被説明変数とする重回帰分析を行い、結果を表 6 にまとめた⁽²⁾。どの学年においても決定係数が低いことに留意すべきだが、概して、社会経済的地位の代理指標である諸変数とグリットには一定の関係が見られる。3 学年に共通している結果は、蔵書数、本についての会話、習い事種類数で、コンサート経験は小学 4 年と中学 3 年においてのみ有意となっている。結果は省略するが、性別と母学歴のみを説明変数とするモデルだと、どの学年においても母学歴が有意($p < .001$)であることから、母が大卒か非大卒かによって、家の本の冊数、コンサート経験、本についての会話など親の趣向や関与——広義の家庭環境が異なると考えられる。

表6 社会経済的地位とグリットの関連

	小学4年生(N=5460)		小学6年生(N= 5365)		中学3年生(N=4355)	
	推定値	SE	推定値	SE	推定値	SE
切片	-0.547 ***	0.043	-0.454 ***	0.044	-0.594 ***	0.047
女性	0.218 ***	0.032	0.269 ***	0.033	0.259 ***	0.036
母・大卒	0.049	0.034	0.025	0.034	0.095 *	0.038
家の本の冊数	0.061 ***	0.017	0.059 ***	0.016	0.076 ***	0.017
コンサート経験	0.086 *	0.036	0.036	0.036	0.124 **	0.045
本についての会話	0.280 ***	0.036	0.137 ***	0.036	0.181 ***	0.040
習い事種類数	0.116 ***	0.024	0.107 ***	0.024	0.157 ***	0.030
残差分散	0.938 ***	0.021	0.954 ***	0.022	0.935 ***	0.024
決定係数	0.061		0.041		0.065	

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$., SE = 標準誤差

同じ行政単位のデータを用いているので都市度を含む地域差は比較的少ないはずだが、家庭の社会経済的地位によって非認知特性の一側面であるグリットに差があることが示されている。また、中学3年生については私立中学校通学者が含まれていないので一部高階層が抜けているデータであるが、社会経済的地位を示す変数はすべて親評価による子のグリットと関連を持っている。

3.2. グリットと教育指標の関連

生徒間のグリット格差は、部分的に社会経済的地位と関連があった。社会階層と関連がある以上、「誰」が望ましいグリットを持つかは差異を意味する「格差」に留まらず、「不平等」といえる。では、出身家庭によって部分的に異なるグリットは、どのような教育指標変数と関連しているのだろうか。

第12章の分析にグリットを含めた結果を表7にまとめた(教育指標変数の定義については第12章を参照のこと)⁽³⁾。まず、母学歴(大卒・非大卒)を統制しても、グリットは学力(国語と算数・数学の正答率の平均)と関連があった。非認知能力は認知能力に影響を与えている(Cunha and Heckman 2008 など)とされるので、「誰」が高いグリットを獲得するかは「誰」が高い学力を獲得するかを左右している可能性がある。社会経済的地位と学力の関連はよく知られているが、社会経済的地位は非認知特性を経由して学力を分化する——親の社会経済的地位が可視化されづらい経路である子の非認知特性を介して、子に受け継がれていることを示唆している。

表7 グリットと教育指標の関連 (個人水準)

	小4	小6	中3
学力	+ ***	+ ***	+ ***
携帯使用時間		- ***	- ***
学校外学習時間	+ *	+ *	
親の学校関与	+ ***	+ ***	+ ***
学校外教育費	+ ***	+ ***	
通塾			
生徒の大学進学期待	+ ***		+ ***
親の大学進学期待	+ ***	+ ***	+ ***
親の学校満足度	+ **	+ **	+ ***
親の学校疎外感		- *	- **
虫歯有無			- *
中学受験予定		+ *	n/a

* p < .05, ** p < .01, *** p < .001.

他の教育指標変数の結果については、生徒性別、母学歴、学力が同時に(個人水準で)投入された結果である。グリットが学習時間と大学進学期待を分化する結果は(有意でない学年もあるが)、中学3年生の全国を対象とした親子データで世帯収入なども考慮した上で他の非認知特性との関連を分析した結果(松岡 2016)と概ね一貫している——出身家庭の社会経済的地位によって非認知特性が異なり、学習行動(学習時間)と大学進学期待を分化している。本章の分析は一地域の

データではあるが、小学校 4 年生と 6 年生の段階でも、非認知特性が子の学習行動、それにどの教育段階まで進むことを現実的とみているか(大学進学期待)を分化しているようだ。母学歴によって大学進学期待はかなり異なるが(詳しくは第 12 章を参照)、部分的には非認知特性であるグリットを介していると解釈できる。生徒自身の大学進学期待だけではなく、おそらく日々の親子の交流を通して大学進学に相応しいグリットが子に内在化しているかを判断し、それが親による子に対する大学進学期待を左右していると考えられる。

また、本章は先行研究(松岡 2016)よりも多様な教育指標との関連をすべてのモデルに対して同一の説明変数を投入することで探索的に検討した。たとえば、学習時間のみならず、携帯・スマートフォンの使用時間についても小学校 6 年生と中学校 3 年生において、性別、母学歴、学力を統制しても、グリットは関連を持っている。推定値が負であるので、高いグリット保持者は携帯・スマートフォン使用時間が短いことを示している。一方で、通塾とは関連が見られなかった。

なお、あくまで探索的な結果ではあるが、親の学校関与、学校外教育費、学校満足度、学校疎外感との関連は興味深い。性別、母学歴、学力を統制した上で、親が子を高グリットと評価していると、親自身の学校関与頻度や学校外での教育費の金額が高いことを意味している。親が子を高グリットであると評価していることが、親自身の子育てに対する自信の基盤となり、学校に対する関与や教育市場における投資、学校に対して疎外感を覚えづらいこと、それに学校に対する満足度に繋がっているのかもしれない。中学受験予定は小学 6 年生のみ生徒のグリットと関連があった。性別、母学歴、学力を統制していることから、生徒が高グリットであることが受験を決める判断材料になっているのかもしれない。換言すれば子の学力のみならず非認知的特性によって親の教育戦略が変容している可能性がある。

虫歯の有無については中学 3 年生のみでグリットと関連があった。高グリットの生徒のほうが安定した生活習慣を身体化していると考えられるが、小学校 4 年と 6 年の時点で関連がない理由はわからず、一貫した傾向とは言い難い。

繰り返しになるが、これらは探索的な結果である。観察されていない(本データで把握できていない)社会経済的地位特性や時間によって変わり得る親の関与を考慮できていないので、これらはあくまでも制限のあるデータの中で確認できる相関関係にすぎない⁽⁴⁾。しかし、一つの地域においても生徒間グリット格差が大きいこと、グリットの高低と社会経済的地位に関連があること、それに性別、母学歴、学力を統制しても、グリットと重要な教育指標の関連は確認できた。よって、学力だけではなく非認知特性を指標化する重要性については示すことができたといえるだろう。社会経済的地位によって異なる家庭環境や親の子育て関与が子の非認知特性として内在化され教育結果へと繋がることは、親の社会経済的地位が子の教育達成を左右するメカニズムの一つであり、教育格差縮小を目指す教育政策が考慮すべき重要な視点であるといえる。

<註>

(1) 小学校 4 年生と 6 年生については 3 種類以上にもそれなりの数が確認できるが中学 3 年生と合わせた。0 から 3 種類としても結果に変わりはない。

- (2) 分析は Mplus 7.4 (Muthén and Muthén 1998-2015) によって行った。Normalized weight を使い、親票の欠損が多いので full information maximum likelihood (FIML) を適用した。なお、FIML なしでも結果の傾向に変わりはない。
- (3) マルチレベルモデルで分析した結果、グリットの級内相関が 1% 以下と低いことが明らかになった。ほとんどが個人間分散であるので、(標準化した) グリットを個人水準において集団(学校)平均中心化(Group-mean centering)した上で各モデルに投入した。結果の詳細は第 12 章を参照のこと。
- (4) 欠損が増えるが父学歴や世帯収入などを統制しても結果の傾向は概ね変わらない。

<参考文献>

- Cunha, Flavio, and James J Heckman, 2008, “Formulating, Identifying and Estimating the Technology of Cognitive and Noncognitive Skill Formation”, *Journal of Human Resources*, Vol.43, No.4, pp.738-782.
- Duckworth, Angela, 2016, *Grit: The Power of Passion and Perseverance*, Simon and Schuster.
- Duckworth, Angela L., Christopher Peterson, Michael D. Matthews and Dennis R. Kelly, 2007, “Grit: Perseverance and Passion for Long-Term Goals”, *Journal of Personality and Social Psychology* 92(6):1087-101.
- 苅谷剛彦, 2008, 『学力と階層』朝日新聞出版。
- Kariya, Takehiko, 2009, “From credential society to ‘learning capital’ society: A rearticulation of class formation in Japanese education and society”, H. Ishida and D. H. Slater eds., *Social Class in Contemporary Japan: Structures, Sorting and Strategies*, Routledge, pp.87-113.
- 松岡亮二, 2016, 「文化資本の多寡による教育不平等：中学生と母親パネル調査 (JLPS-J) データを用いた非認知特性の役割の検討」日本教育社会学会第 68 回大会, 2016 年 9 月 18 日 (於：名古屋大学)。
- Matsuoka, Ryoji, 2013, “Learning Competencies in Action: Tenth Grade Students’ Investment in Accumulating Human Capital under the Influence of the Secondary Education System in Japan”, *Educational Studies in Japan: International Yearbook*, Vol.7, pp.65-79.
- Muthén, Linda K., and Muthén, Bengt O., 1998-2015, *Mplus User's Guide (Seventh ed.)*, Muthén & Muthén.
- 西川一二・奥上紫緒里・雨宮俊彦, 2015. “日本語版 short Grit (Grit-S) 尺度の作成” 『パーソナリティ研究』第 24 集 2 号, pp.167-69.
- 中室牧子, 2015, 『「学力」の経済学』ディスカヴァー・トゥエンティワン。

第 11 章. 肥満・虫歯・体力テストと SES

川口俊明

本章では、肥満・虫歯・体力テストの総合点と SES の関連性を検討する。近年、日本でも SES が健康と関連を持つことが明らかになり、「健康格差」に関する議論が注目を集めるようになってきている（川上・橋本・近藤 2015）。しかしその一方で、日本の小・中学校教育において、SES と児童生徒の健康の関連を明らかにする調査はそれほど多くはない（阿部 2013）。

こうした現状を踏まえ、本章では、自治体が所持するデータを利用しながら、子どもの健康・体力と SES の関連について検討する。なお、健康と SES の関連については、疫学・経済学の分野を中心に、すでに相当な知見の蓄積が存在する。近年は、同一の子どもを継続的に調査するパネルデータを使用して、因果関係に踏み込む議論も数多く行われており、日本でも数は少ないながら、こうした研究が存在している（李 2012）。これに対して、本章で使用するデータは、確かに貴重ではあるものの、一時点のスナップショットに過ぎず、因果関係を検討することは難しい。

そこで本章では、因果関係を明らかにすることよりも、日本の小中学生の健康格差の実態を、自治体が所持するデータから描くことを目的とする。以下で指摘するように、学校で実施されている身長・体重測定、歯科検診、体力テストのデータを、就学援助の有無と結びつければ、現状でも、十分に子どもの健康格差を明らかにすることができる。本章の分析は、自治体が既存の子どもに関するデータを結びつけた、教育データベースの構築の必要性を示したものである。

1. 使用するデータ

表 1. 記述統計

	小 4 (N=4227)				小 6 (N=4059)				中 3 (N=3198)			
	最小	最大	平均	SD	最小	最大	平均	SD	最小	最大	平均	SD
男子	0	1	0.49	0.50	0	1	0.50	0.50	0	1	0.49	0.50
肥満傾向	0	1	0.07	0.25	0	1	0.08	0.27	0	1	0.06	0.23
虫歯	0	1	0.24	0.43	0	1	0.19	0.39	0	1	0.21	0.40
生活習慣	1	4	1.56	0.56	1	4	1.56	0.52	1	4	1.56	0.49
本の冊数	1	5	2.96	1.14	1	5	3.12	1.14	1	5	3.05	1.23
SES	-3.57	2.85	-0.09	1.01	-3.66	3.38	-0.10	1.00	-3.60	3.09	-0.07	1.00
就援	0	1	0.23	0.42	0	1	0.23	0.42	0	1	0.24	0.43

本章で使用するデータの記述統計量は、表 1 の通りである。なお、肥満傾向（詳細は後述）については、該当する児童生徒を 1、それ以外を 0 の 2 値変数にしている。また、虫歯についても、虫歯が一本でもある児童生徒を 1、それ以外を 0 としている。そのため、肥満傾向・虫歯の変数の平均値は、該当する児童生徒が全体の何%いるかを示した値になる。たとえば、肥満傾向の児童は、小学校 4 年生で 7%、小学校 6 年生で 8%、中学校 3 年生で 6% となる。この値は、全国平均と比べるとやや低い値である⁽¹⁾。なお、欠損値を含むデータは、リストワイズ法で削除している。

2. 肥満と SES

低 SES が肥満と関連していることは、よく知られている。一方で、日本の一般の人々の認識では、肥満はむしろ高 SES 群に多いと考えられているとされている（福田 2012）。そこで、SES と子どもの肥満の関連をローレル指数によって検討することから始めよう。

ローレル指数とは、学童期の児童の肥満度を評価する場合に使用されている指標である。計算式は、体重[kg] ÷ 身長[m]の 3 乗 × 10 の 7 乗であり、130 が標準となる。以下では、計算したローレル指数を、100 未満をやせ、100～115 をやせぎみ、115～145 を正常、145～160 を肥満気味、160 以上を肥満とし、分析に使用している。

まず、表 2 から表 4 は、SES とローレル指数の関連を学年ごとに表示している。SES は、第 5 章の方法で算出したものを、だいたい同じ人数になるように「SES 低」「SES 中-低」「SES 中-高」「SES 高」の 4 群に分割したものである。

これを見ると、いずれの学年でも SES 低のグループで肥満に該当する児童生徒が多いことがわかる。一方で、やせについては、一貫した傾向があるわけではなく、SES との関連性は見いだしにくい。

表 2. SES とローレル指数（小 4）（単位【%】）

	やせ	やせぎみ	正常	肥満ぎみ	肥満
SES 低	1.25	21.14	61.65	8.75	7.22
SES 中-低	2.12	26.81	61.98	4.10	4.99
SES 中-高	1.68	27.31	63.64	4.67	2.70
SES 高	1.52	26.64	63.14	6.10	2.60

そこで以下では、肥満に焦点を絞った分析を行う。その際、文部科学省が、学校保健統計の中で使用している肥満傾向という指標を利用する。これは、身長と体重から肥満傾向にある児童生徒を判別する指標であり、性別・年齢別・身長別に計算した標準体重から求めた肥満度が、20%以上の児童生徒を指している。計算式については、平成 27 年度の学校保健統

計調査報告書⁽²⁾を参照している。

表3. SESとローレル指数(小6)(単位【%】)

	やせ	やせぎみ	正常	肥満ぎみ	肥満
SES低	4.10	27.60	55.87	6.04	6.38
SES中-低	3.79	32.97	55.21	4.12	3.91
SES中-高	3.60	38.63	49.76	5.49	2.52
SES高	4.24	36.63	53.16	4.22	1.76

表4. SESとローレル指数(中3)(単位【%】)

	やせ	やせぎみ	正常	肥満ぎみ	肥満
SES低	4.21	29.12	54.98	6.38	5.32
SES中-低	5.04	29.17	55.68	6.16	3.95
SES中-高	4.53	30.24	56.37	6.01	2.85
SES高	4.18	32.90	55.47	5.80	1.65

表5では、学年ごとのSESと肥満傾向の関連を示している。これを見ると、どの学年段階でもSES低群で肥満傾向の該当者が多いことがわかる。特に、その傾向は小学校低学年で顕著であり、SES高群とSES低群では、倍以上の差がある。また、SES中-低群からSES高群の間にある差はそれほど大きくないことから、肥満傾向とSESの関連は、直線的な関係があるというよりも、SES低群で特に肥満傾向と判定される児童生徒が多いということも読み取れる。これは、子どものSESと健康の関連を、「子どもの貧困(阿部2008)」の視点から読み解く必要があるということを示している。

表5. SESと肥満傾向(単位【%】)

	小4	小6	中3
SES低	12.09	10.53	7.22
SES中-低	6.45	6.66	6.32
SES中-高	4.65	6.16	4.89
SES高	4.78	5.22	4.62

そこで、本章ではSESのみならず、一人親家庭であるかどうかと、肥満傾向の間の関連

についても見てみよう。日本の母子世帯が、さまざまな面で厳しい状況に置かれていることは、よく知られている（阿部 2008, pp.103-143）。貧困と健康の関連性を検討するのであれば、一人親家庭と健康の関連を見ておくことも必要であろう。表 6 を見るとわかるように、一人親家庭とそれ以外の家庭では、一人親家庭の児童生徒の方が肥満傾向があると判定される割合が高い。

表 6. 一人親と肥満（単位【%】）

	小 4	小 6	中 3
その他	6.57	6.67	5.60
一人親	8.59	9.71	6.08

それでは、これら相互の関連はどうなっているだろうか。ここでは、肥満傾向と判定されるかどうかを従属変数とした、ロジスティック回帰分析を行う。結果は、表 7 から表 9 のようになる。

表 7. 肥満傾向のロジスティック回帰（小 4）（*は 5%水準で有意。以下同じ）

	推定	SE	推定	SE	推定	SE	推定	SE
切片	-3.07*	0.22	-3.46*	0.15	-2.00*	0.15	-2.66*	0.06
SES	-0.33*	0.06	-0.36*	0.06				
本の冊数	-0.12	0.05			-0.22*	0.05		
一人親	-0.13	0.16	-0.11	0.16	0.19	0.17	0.29	0.16
生活習慣	0.47*	0.08	0.48*	0.08				

表 8. 肥満傾向のロジスティック回帰（小 6）

	推定	SE	推定	SE	推定	SE	推定	SE
切片	-3.23*	0.23	-3.61*	0.16	-2.04*	0.15	-2.64*	0.06
SES	-0.22*	0.06	-0.25*	0.06				
本の冊数	-0.11	0.05			-0.19*	0.05		
一人親	0.18	0.14	0.20	0.14	0.34*	0.13	0.41*	0.13
生活習慣	0.58*	0.09	0.60*	0.09				

表 7 から表 9 の結果を見ると、いずれの学年でも SES が低いほど、児童生徒が肥満傾向

と判断されやすいことがわかる。次に、生活習慣との関連も見られ、生活習慣が不規則であるほど、肥満傾向に該当しやすいことがわかる。一方、一人親家庭であるかどうかは、表 8 の小学 6 年生の分析でのみ有意な値を示すモデルが存在する。ただし、一人親家庭であるかどうかは SES を統制した分析では、どの学年でも有意な値を示していないため、小学 6 年生の分析で見られる一人親家庭と肥満傾向の関連は、SES による見せかけの相関であると考えられる。

表 9. 肥満傾向のロジスティック回帰 (中 3)

	推定	SE	推定	SE	推定	SE	推定	SE
切片	-3.46*	0.28	-3.35*	0.22	-2.81*	0.22	-2.82*	0.07
SES	-0.19*	0.07	-0.18*	0.08				
本の冊数	0.03	0.07			-0.01	0.07		
一人親	-0.06	0.19	-0.07	0.19	0.08	0.19	0.09	0.19
生活習慣	0.33*	0.13	0.34*	0.13				

なお、SES の代理指標として、「家庭にある本の冊数」を統制してみたところ、全体的に本の冊数の推定値は、SES の推定値より低く、肥満傾向との関連が弱いことがわかる。そのため、表 8 の小学校 6 年生の分析のように、本の冊数と一人親家庭のみを統制した場合、SES を統制した場合と異なり、一人親家庭の変数が有意な値を示すこともある。これは、「家庭のある本の冊数」を SES の代理指標とした場合、判断を誤る可能性があることを意味する。また、中学校 3 年生の分析を示した表 9 では、本の冊数は肥満傾向とほとんど関連を示しておらず、SES の代替指標となっていない。

第 7 章や第 8 章で示したように、成績を従属変数とした分析では、「家庭にある本の冊数」は有力な SES の代替指標であった。一方で、従属変数が児童生徒の健康である場合は、「家庭にある本の冊数」は SES を代替する指標とらない可能性があることを、今回の分析は示している。

表 10. 肥満傾向のロジスティック回帰 (就学援助受給の有無を使用した場合)

	小 4		小 6		中 3	
	推定	SE	推定	SE	推定	SE
切片	-3.59*	0.15	-3.72*	0.16	-3.39*	0.22
就援	0.24*	0.12	0.40*	0.12	0.06	0.16
一人親	0.01	0.17	0.16	0.14	0.02	0.19
生活習慣	0.56*	0.08	0.63*	0.09	0.36*	0.13

なお、SES の代わりに、就学援助受給の有無を統制した場合のロジスティック回帰分析の結果を表 10 に示す。これを見ると、中学校 3 年生を除いては、SES を統制した場合と似たような推定値が得られていることがわかる。健康と SES の関連を検討する場合、本の冊数より、就学援助受給の有無を使用した方が、より適切な結果が得やすい可能性を、今回の分析は示唆している。

3. 虫歯と SES

虫歯も健康と関連が深い指標である。日本でも、区レベルの集計データではあるものの、駒村（2009, p.79）が、区の平均所得と虫歯の状況に関連があることを示している。ここでは、個票レベルのデータを用いて、虫歯の有無と SES の関連を検討してみよう。

表 11 は、SES と虫歯の有無に関する表である。これをみると、どの学年でも、肥満傾向と同じく SES が低い群で虫歯が多いことがわかる。特に、小学校 4 年生で差が大きく、SES 低群と、SES 中-高・SES 高群の間では、虫歯のある児童の割合に 2 倍近い差が生じている。

表 11. SES と虫歯（虫歯がある児童生徒の割合、単位【%】）

	小 4	小 6	中 3
SES 低	34.55	26.26	26.51
SES 中-低	25.49	17.21	20.98
SES 中-高	17.67	17.27	17.57
SES 高	18.29	13.36	17.58

なお、男女差については、やや男子の方が高い傾向が見られるが、各学年ともにほとんど差は存在していない（表 12）。

表 12. 性別と虫歯（単位【%】）

	小 4	小 6	中 3
女子	22.66	18.25	19.27
男子	24.30	18.32	21.45

虫歯の有無について、肥満傾向と同じ変数を用いてロジスティック回帰を行ってみよう。分析結果を示したのが表 13 である。また、表 14 は、SES ではなく就学援助を統制した場

合を示している。これを見ると、SES、就学援助受給の有無、生活習慣は一貫してどの学年でも、虫歯の有無に影響を与えている。男子ダミーは、一貫してどの学年でも有意ではない。そして、一人親家庭か否かは、小学校6年生では関連がないものの、小学校4年生・中学校3年生では、一人親家庭の児童生徒の方が虫歯があるという傾向を示している。全体的に、一人親家庭の推定値が、肥満に関する表7から表9で示した値より大きいため、肥満傾向とは異なり、虫歯の有無は一人親家庭か否かと何らかの関連を持っていると考えられる。

表 13. 虫歯のロジスティック回帰 (SES を使用した場合)

	小4		小6		中3	
	推定	SE	推定	SE	推定	SE
切片	-1.75*	0.10	-1.92*	0.11	-1.81*	0.14
SES	-0.28*	0.03	-0.31*	0.04	-0.20*	0.04
一人親	0.41*	0.10	0.14	0.10	0.25*	0.11
男子	0.07	0.06	0.01	0.07	0.14	0.08
生活習慣	0.30*	0.06	0.24*	0.07	0.21*	0.08

表 14. 虫歯のロジスティック回帰 (就学援助受給の有無を使用した場合)

	小4		小6		中3	
	推定	SE	推定	SE	推定	SE
切片	-1.88*	0.10	-2.02*	0.11	-1.89*	0.14
就援	0.40*	0.08	0.35*	0.08	0.43*	0.10
一人親	0.38*	0.11	0.18	0.11	0.19	0.12
男子	0.04	0.06	-0.01	0.07	0.13	0.08
生活習慣	0.35*	0.06	0.28*	0.07	0.21*	0.08

なぜ、肥満傾向と虫歯の有無で、一人親家庭の推定値に差が生じるのか、現時点の分析では不明である。ただ、日本の一人親家庭の教育問題を検討する上では、こうした差異も今後検討していく必要があるだろう。

4. 体力テスト

最後に、体力テストとSESの関連について検討してみよう。都道府県レベルの集計データを用いて、体力テストと貧困の関連を検討した石原・富田・平出・水野(2015)の分析に

よれば、体力テストの総合点は貧困とほとんど関連を持たないことが指摘されている。

ここでは、体力テストの個票データを用いて、体力テストとSESの関連について検討する。今回得られた体力テストのデータには、50m走のタイムやシャトルランの回数など、個々のテスト項目のデータも含まれているが、今回は体力テストの総合点をもとに分析を行う。なお、体力テストの総合点とは、個々の体力テストの調査項目を性別・年齢に応じた得点に換算し、それを合計した数値である。

体力テストの総合点を従属変数に、SESを独立変数とした回帰分析の結果を示したものが表15である。これを見ると、R²の値はほとんど0に近く、モデルの説明力は低い。その一方で、SESの係数は有意な値を示しており、SESが低いほど体力テストの総合点が下がる傾向が認められる。

表 15. 体力テストの総合点とSES

	小4 (N=4404)			小6 (N=4207)			中3 (N=3358)		
	β	推定	標準誤差	β	推定	標準誤差	β	推定	標準誤差
切片		48.29*	0.11		59.18*	0.12		48.71*	0.17
SES	0.09	0.81*	0.11	0.09	0.87*	0.12	0.11	1.24*	0.17
R ²	0.01			0.01			0.01		

モデルの説明力は低いものの、SESと関連があるというのは気になる事態である。そこでデータを再検討したところ、体力テストの総合点は、個々のテスト項目が欠席で未入力の場合、その項目を0点として計算されていることがわかった。それゆえ、1項目でも欠損している場合は、総合点を欠損扱いにして、あらためて分析を行ったところ、表16のようになった。なお、中学校3年生の体力テストについては、複数の項目で種目の読み替えが行われているが、今回得られたデータでは、種目を読み替えたことによるデータの欠落と、欠席による欠損を区別できなかった。そのため、中学校のデータは、以下の分析から除外している。

表 16. 体力テストの総合点とSES (欠席者を調整)

	小4 (N=4153)			小6 (N=3937)		
	β	推定	標準誤差	β	推定	標準誤差
切片		49.27*	0.11		59.88*	0.15
SES	-0.01	-0.05	0.11	-0.02	-0.17	0.14
R ²	0.00			0.00		

表 16 を見ると、 R^2 はほとんど 0 であり、SES の係数も有意な値を示していない。そのため、体力テストの総合点と SES の間に関連は存在せず、体力格差を裏付けるようなデータにはなっていないといえる。

ここで気になるのは、体力テストを欠席している児童のデータを含めると、SES と体力テストの総合点に関連がでるといえる点である。これは、SES が低いことが体力テストの欠席と関連し、結果として、表 15 で SES 低群の体力テストの点数が低下していたという可能性を示唆している。そこで、体力テストを欠席するかどうかを従属変数に、SES を独立変数にしたロジスティック回帰分析を実施した。結果は表 17 のようになる。

表 17. 体力テストの欠席と SES

	小 4 (N=251)		小 6 (N=270)	
	推定	標準誤差	推定	標準誤差
切片	-2.88*	0.06	-2.75*	0.05
SES	-0.10	0.06	-0.23*	0.05

表 17 をみると、小学校 4 年生、小学校 6 年生ともに、SES の推定値はマイナスの値を示しており、SES が低いほど体力テストを欠席する傾向が認められた。ただし、係数は小学校 4 年生では有意ではなく、小学校 6 年生でのみ有意である。

本調査では、各児童生徒の欠席日数をデータとして取得していなかったため、これ以上の分析を行うことはできない。しかし今回の分析は、SES が低い子どもたちが、学校を欠席する可能性が高いということを示唆している。

第 5 章でも少し触れたが、現行の小中学生を対象とした学力調査では、欠席の児童生徒ははじめから分析から除外されている可能性が高い。本章の分析は、こうした調査から除外されている可能性のある児童生徒に焦点を当てた調査・分析が必要であることを示すものである。

5. まとめ

本章では、自治体が所持するデータを利用しながら、子どもの健康・体力と SES の関連について検討した。ごく簡単な分析ではあるが、そこから明らかになったことをまとめておこう。

まず、肥満傾向・虫歯といった、児童生徒の健康状態と SES の間に関連があるということである。日本の小中学校教育を対象とした調査の中で、こうした関連が明らかにされることは少ないが、教育格差が注目を集める昨今、健康と SES に関するデータを整備・分析していく必要があると思われる。

一方で、体力テストの総合点と SES の間には明確な関連は見られなかった。しかし、体力テストの総合点を分析する中で、SES が学校を欠席するかどうかを左右している可能性が示された。本調査では、欠席に関する情報を収集していなかったが、今後は、児童生徒の欠席に注目することも必要である。

もう一つ、本章の分析が示すのは、教育行政が持つさまざまなデータを接続した教育データベースを構築することの重要性である。本章で示した分析は、必ずしも新しい調査を必要としない。児童生徒の身長・体重、虫歯、体力テストについては、毎年、各学校で調査が実施されている。こうしたデータの管理を、各学校に任せきりにするのではなく、相互に関連させることで、教育格差の実態把握と、格差是正のための教育政策を検討することができる。

また、第 7 章や第 8 章で、有力な SES の代替指標とされていた「家庭にある本の冊数」は、成績に対する SES 指標としては有効だが、健康格差を分析する場合は、それほど有益な代替指標ではないことも明らかになった。こうした場合は、本章で示したように、就学援助受給の有無を使用する必要があるだろう。

なお、本章の分析は、SES と健康の間に相関関係が存在することを示しただけであり、SES が低いことが肥満に繋がるといったような因果関係を示していないことに注意が必要である。今後、同一児童生徒の変化を追跡できるような教育データベースを整理することができれば、パネルデータを構築し、因果関係を推測することも可能となる。今後の情報の蓄積と、より詳細な検討が求められるだろう。

<註>

- (1) 2015 年度の報告書によれば、肥満傾向に該当する児童生徒は、小学校 4 年生（9 歳）で男子 8.93%/女子 6.99%、小学 6 年生（11 歳）で男子 9.87%/女子 7.92%、中学 3 年生（14 歳）で男子 7.94%/女子 7.14%となっている。
- (2) http://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afieldfile/2016/03/28/1365988_01.pdf を参照。

<参考文献>

- 阿部彩，2008，『子どもの貧困－日本の不公平を考える－』岩波新書。
- 阿部彩，2013，「子どもの健康格差の要因」『医療と社会』Vol. 22, No.3, pp. 255-269.
- 石原暢，富田有紀子，平出耕太，水野眞佐夫，2015，「日本の子どもにおける貧困と体力・運動能力の関係」『北海道大学大学院教育学研究院紀要』Vol.122, 93-105.
- 川上憲人・橋本英樹・近藤尚己編，2015，『社会と健康－健康格差解消に向けた統合科学的アプローチ－』東京大学出版会。
- 駒村康平，2009，『大貧困社会』角川 SSC 新書。
- 福田吉治，2012，「贅沢病は裕福な人に多いか」『医療と社会』Vol.22, No.1, pp.31-39.
- 李青雅，2012，「母親の就業は子どもの肥満をもたらすのか」『慶應義塾大学パネルデータ設計・解析センターディスカッション・ペーパー』DP-2011-011.

第 12 章. 公立小中学校の学校間不平等 —学力・生徒行動・教育選択・親の学校関与・健康—

松岡亮二

1. 義務教育における学校間格差

日本の義務教育は標準化された制度（荻谷 2009）であり、国際学力調査（TIMSS・PISA）の結果を他国と比べると比較的平等な教育機会を提供していると考えられている。しかし、教育資源を標準化——学校施設、学習指導要領、教科書、教員免許などを均一化し、財政的な支援も含めて地域間の差異を減らす「面の平等」を目指した施策(荻谷 2009)は、国内における社会経済的格差を完全に消しているわけではない。事実、義務教育段階を対象とした TIMSS データによる研究(Matsuoka 2013, 2014a, 2014b, 2015)は、生徒間のみならず学校間の社会経済的格差が生徒の学力や行動、親の学校関与、それに教員の生徒に対する学業達成への期待などを左右していることを示している。学習指導要領や教員定数のような政策的介入によって「面の平等」を目指しても、「誰」がその地域に住んでいるかは変わらず、そこに住んでいる人たちによって学校やその学校の生徒に対する教育的関わりや期待も異なる。事実、全国を対象とした社会調査の分析（Matsuoka and Maeda 2015）によると、大卒者割合が高い近隣の住民は教育に対して肯定的な態度を示している。この知見は、その地域に「誰」が住んでいるかによって近隣の公立学校の内実が大きく異なる可能性を提示している。

平等な教育機会の提供を目指す制度下であっても、学校間に生徒の社会経済的格差が存在し教育達成を左右していると考えられるが、実証データによる研究知見の蓄積が十分とはいえない。そこで本章では、一つの行政単位内のデータを用いて、公立の小中学校における学校間格差について TIMSS のような全国サンプルの代表性のあるデータには含まれていない多様かつ重要な教育指標について検討する。

2. 使用変数

2.1. 変数の分布

本章では小学校 4 年と 6 年、それに中学校 3 年という三つの教育段階において学校間格差を多様な指標について検討する。具体的には、学力、生徒の行動（携帯・スマートフォン使用時間、学校外学習時間）、教育選択（通塾、学校外教育費、生徒と親の大学進学期待、中学受験予定）、親の学校との関わり（学校関与、学校満足度、学校疎外感）、それに健康（虫歯）を扱う。変数の定義は下記の通りで、これらの変数の分布は表 1 から 6 に示した。

学力：国語と算数・数学の正答率の平均を標準化。

携帯使用時間：生徒票の回答を利用。「普段（月～金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（携帯電話やスマー

トフォンを使ってゲームをする時間は除きます)」に対する選択肢（「1時間以上、2時間より少ない」など）の中央値。

学校外学習時間：「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」と「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対する回答を用いた一週間の学校（授業）外学習時間（平日5日、週末2日）。学習塾などの時間も含まれている。

親の学校関与：親票の回答を利用。「あなたは、次のことをどの程度していますか」という設問の「授業参観への参加」、「学級懇談・学年懇談への参加」、「運動会・音楽会などの学校行事への参加」、「PTA活動への参加」、「ボランティアでの学校支援（PTAは除く）」に対する「よくする」から「まったくしない」の4点尺度の回答を主成分分析した第一主成分得点（小4：49%、小6：52%、中3：58%）。

学校外教育費：親票の回答を利用。「学校以外の教育（学習塾や習い事）にかかる1か月あたりの平均の支出はどれくらいですか」に対する選択肢の中央値。

通塾：親票の回答で習い事の種類の「学習塾」を示す二値変数。

生徒の大学進学期待：生徒票（4月）の回答。「あなたは、将来、どの学校まで進みたいと思いますか」に「大学まで」「大学院まで」を大卒希望として1、残りを0とした。

親の大学進学期待：親票（10月）の回答。「あなたは、お子さんに、どの段階の学校まで進んでほしいと思っていますか。現在のお考えにもっとも近いもの一つを選んで、番号に○をつけてください」に「大学まで」「大学院まで」を大卒希望として1、残りを0とした。

親の学校満足度：親票の回答。「お子さんが通われている学校のことについて」の「総合的に見てお子さんが通っている学校に満足していますか」を用いた。「満足している」と「まあ満足している」を1、「あまり満足していない」と「満足していない」を0とした。

親の学校疎外感：親票の回答。「次のような理由で学校での活動に参加することが難しいと感じることはありますか」の「学校や先生に歓迎されていると感じない」に「ある」を1、「ない」を0とした。

虫歯：学校における検査結果で、虫歯が一本以上を1、ない場合は0とした。

中学受験予定：親票の「お子さんは私立中学校や国立中学校、公立中間一貫校を受ける予定ですか」に対する「受ける」を1、「まだ決めていない」と「受けない」を0とした。子が小学4年生と6年生のときのみ。

表1 被説明変数(連続変数):小学校4年生

	度数	最小値	最大値	平均	標準偏差	歪度	尖度
学力(標準化)	5453	-3.494	1.697	0	1	-0.750	0.105
携帯使用時間(一日)	5402	0	2	0.417	0.559	1.577	1.661
学校外学習時間(1週間)	5397	0	14	8.217	3.976	-0.300	-1.099
親の学校関与	4505	-4.625	1.485	0	1	-0.986	1.247
一か月の学校外教育費(万円)	4537	0	5	1.334	1.164	1.267	1.338

表2 被説明変数の分布:小学校4年生

	度数	%	有効%		度数	%	有効%
生徒水準 (N=5578)							
通塾(親回答)				親の学校疎外感			
通塾(1)	1022	18.3	22.4	疎外感(1)	187	3.4	4.3
非通塾(0)	3532	63.3	77.6	非疎外感(0)	4142	74.3	95.7
欠損	1024	18.4		欠損	1249	22.4	
生徒の大学進学期待				虫歯			
4年制大学以上(1)	2066	37.0	38.3	1本以上(1)	1369	24.5	24.9
短大以下(0)	3322	59.6	61.7	なし(0)	4122	73.9	75.1
欠損	189	3.4		欠損	87	1.6	
親の大学進学期待				中学受験予定(親回答)			
4年制大学以上(1)	3155	56.6	70.0	予定(1)	357	6.4	7.9
短大以下(0)	1351	24.2	30.0	予定なし(0)	4176	74.9	92.1
欠損	1071	19.2		欠損	1046	18.7	
親の学校満足度							
満足・まあ満足(1)	3965	71.1	87.6				
不満足(0)	562	10.1	12.4				
欠損	1052	18.9					

表3 被説明変数(連続変数):小学校6年生

	度数	最小値	最大値	平均	標準偏差	歪度	尖度
学力(標準化)	5325	-3.362	1.867	0.065	0.983	-0.608	-0.216
携帯使用時間(一日)	3594	0.250	4.500	0.975	1.212	1.739	1.891
学校外学習時間(1週間)	5334	0	26.500	10.879	7.158	0.684	-0.381
親の学校関与	4180	-4.068	1.495	0.021	0.984	-0.865	0.697
一か月の学校外教育費(万円)	4218	0	5	1.504	1.357	1.099	0.417

表4 被説明変数の分布: 小学校6年生

	度数	%	有効%		度数	%	有効%
生徒水準 (N=5475)							
通塾(親回答)				親の学校疎外感			
通塾(1)	1488	27.2	35.2	疎外感(1)	177	3.2	4.4
非通塾(0)	2737	50.0	64.8	非疎外感(0)	3818	69.7	95.6
欠損	1250	22.8		欠損	1480	27.0	
生徒の大学進学期待				虫歯			
4年制大学以上(1)	2307	42.1	44.9	1本以上(1)	1018	18.6	18.9
短大以下(0)	2828	51.6	55.1	なし(0)	4380	80.0	81.1
欠損	340	6.2		欠損	78	1.4	
親の大学進学期待				中学受験予定(親回答)			
4年制大学以上(1)	2977	54.4	71.2	予定(1)	437	8.0	10.4
短大以下(0)	1203	22.0	28.8	予定なし(0)	3761	68.7	89.6
欠損	1296	23.7		欠損	1277	23.3	
親の学校満足度							
満足・まあ満足(1)	3654	66.7	86.9				
不満足(0)	549	10.0	13.1				
欠損	1273	23.2					

表5 被説明変数(連続変数): 中学3年生

	度数	最小値	最大値	平均	標準偏差	歪度	尖度
学力(標準化)	4447	-3.305	1.924	0	1	-0.499	-0.342
携帯使用時間(一日)	3655	0.250	4.500	1.616	1.401	0.758	-0.666
学校外学習時間(1週間)	4446	0	26.500	11.123	7.417	0.327	-0.856
親の学校関与	3547	-2.841	1.698	0	1	-0.425	-0.467
一か月の学校外教育費(万円)	3565	0	5	2.751	1.471	-0.491	-0.857

表6 被説明変数の分布: 中学3年生

	度数	%	有効%		度数	%	有効%
生徒水準 (N=4636)							
通塾(親回答)				親の学校満足度			
通塾(1)	2680	57.8	74.8	満足・まあ満足(1)	2627	56.7	73.8
非通塾(0)	905	19.5	25.2	不満足(0)	932	20.1	26.2
欠損	1051	22.7		欠損	1077	23.2	
生徒の大学進学期待				親の学校疎外感			
4年制大学以上(1)	2475	53.4	56.8	疎外感(1)	228	4.9	6.7
短大以下(0)	1884	40.6	43.2	非疎外感(0)	3148	67.9	93.3
欠損	277	6.0		欠損	1260	27.2	
親の大学進学期待				虫歯			
4年制大学以上(1)	2365	51.0	66.6	1本以上(1)	951	20.5	21.5
短大以下(0)	1186	25.6	33.4	なし(0)	3479	75.0	78.5
欠損	1086	23.4		欠損	206	4.5	

2.2. 社会経済的地位と教育指標の関連

まず、第10章と同じように、使用変数の中でも主要な社会経済的地位の代理指標である母学歴によってこれらの教育指標に差があるのか個人水準で検討した。表7が示すように、どの学年においても、母親の最終学歴が大卒（短大以上）か非大卒で格差が確認できる。具体的には、母親が大卒の子は学力が高く、携帯使用時間は短く、学校外学習時間は長く、通塾し、大学進学を期待し、虫歯はない傾向にある。また、大卒の親は学校に関与し、学校外教育費は高く、子の大学進学を期待し、学校に満足し、疎外感はなく、子の中学受験を予定する傾向が確認できる。

表7 被説明変数の母学歴別平均値(親票)

	学力	携帯使用 時間	学校外 学習時間	親の 学校関与	学校外 教育費	通塾
小学4年生						
大卒	0.289	0.361	8.685	0.184	1.605	0.266
非大卒	-0.179	0.462	7.971	-0.185	1.056	0.182
小学6年生						
大卒	0.378	0.788	12.176	0.191	1.823	0.419
非大卒	-0.102	1.055	10.059	-0.131	1.181	0.284
中学3年生						
大卒	0.356	1.392	12.535	0.213	3.051	0.823
非大卒	-0.176	1.719	10.338	-0.155	2.511	0.690
	生徒の 大学進学 期待	親の 大学進学 期待	親の学校 満足度	親の学校 疎外感	虫歯	中学受験 予定
小学4年生						
大卒	0.442	0.818	0.883	0.035	0.196	0.103
非大卒	0.330	0.578	0.869	0.052	0.276	0.053
小学6年生						
大卒	0.553	0.829	0.875	0.025	0.155	0.137
非大卒	0.381	0.591	0.866	0.064	0.212	0.071
中学3年生						
大卒	0.707	0.815	0.759	0.052	0.176	n/a
非大卒	0.471	0.540	0.723	0.079	0.232	n/a

2.3. 社会経済的地位による学校間格差——学校間不平等——

これらの教育指標は個人間のみならず学校間においても差異がある(結果は省略)。よって個人水準の分析ではなく、生徒と学校の2水準を考慮した分析が求められる。本章では、学校間の違いが学校水準の社会経済的地位と関連しているか検討するため、ランダム切片モデルを用いた。

学校水準の母大卒割合が被説明変数の学校間の違いを説明するマルチレベルモデルである⁽¹⁾。
各学年の結果を表 8～10 にまとめた。

表8 生徒と学校の二水準のマルチレベル分析の結果: 小学校4年生

	学力		携帯使用時間		学校外学習時間		親の学校関与	
	推定値	SE	推定値	SE	推定値	SE	推定値	SE
学校水準 (N= 138)								
切片	-0.365	0.031 ***	0.503	0.016 ***	7.704	0.124 ***	-0.147	0.030 ***
母大卒割合	0.887	0.148 ***	-0.198	0.082 *	1.641	0.551 **	0.188	0.170
残差分散	0.038	0.009 ***	0.005	0.002 *	0.455	0.117 ***	0.033	0.008 ***
生徒水準	N=5550		N=5559		N=5559		N=5559	
女性	0.256	0.023 ***	-0.081	0.017 ***	0.386	0.113 **	-0.030	0.030
母大卒	0.388	0.029 ***	-0.062	0.017 ***	0.421	0.112 ***	0.296	0.030 ***
学力			-0.091	0.009 ***	0.591	0.059 ***	0.089	0.016 ***
グリット	0.170	0.017 ***	-0.016	0.009	0.155	0.064 *	0.092	0.016 ***
残差分散	0.873	0.022 ***	0.309	0.009 ***	14.883	0.200 ***	0.960	0.031 ***
	学校外教育費		通塾		生徒の大学進学期待		親の大学進学期待	
	推定値	SE	推定値	SE	推定値	SE	推定値	SE
学校水準 (N= 138)								
切片/閾値	1.087	0.041 ***	1.487	0.082 ***	0.707	0.064 ***	-0.961	0.068 ***
母大卒割合	1.557	0.216 ***	2.097	0.379 ***	1.123	0.245 ***	3.103	0.314 ***
残差分散	0.076	0.018 ***	0.124	0.025 ***	0.056	0.010 ***	0.057	0.014 ***
生徒水準	N=5559		N=5550		N=5550		N=5550	
女性	-0.033	0.033	-0.186	0.082 *	-0.013	0.065	-1.029	0.074 ***
母大卒	0.347	0.037 ***	0.315	0.084 ***	0.302	0.076 ***	0.868	0.069 ***
学力	0.161	0.020 ***	0.148	0.046 **	0.333	0.031 ***	0.436	0.042 ***
グリット	0.069	0.017 ***	0.027	0.039	0.163	0.031 ***	0.168	0.036 ***
残差分散	1.066	0.045 ***						
	親の学校満足度		親の学校疎外感		虫歯		中学受験予定	
	推定値	SE	推定値	SE	推定値	SE	推定値	SE
学校水準 (N= 138)								
閾値	-2.004	0.096 ***	2.922	0.131 ***	1.070	0.098 ***	2.921	0.124 ***
母大卒割合	1.767	0.452 ***	-1.549	0.201 ***	-1.389	0.521 **	1.183	0.755
残差分散	0.277	0.051 ***	0.003	0.000 ***	0.719	0.128 ***	0.427	0.088 ***
生徒水準	N=5550		N=5550		N=5568		N=5550	
女性	0.156	0.080	-0.033	0.151 ***	-0.050	0.071	-0.353	0.131 **
母大卒	-0.088	0.089	-0.279	0.155	-0.261	0.093 **	0.496	0.126 ***
学力	0.017	0.050	-0.207	0.080 **	-0.348	0.042 ***	0.522	0.097 ***
グリット	0.178	0.054 **	-0.118	0.072	-0.005	0.039	0.109	0.069

* p < .05, ** p < .01, *** p < .001., SE = 標準誤差

表 8 の小学校 4 年生の結果によると、親の学校関与と中学受験予定以外は、学校水準の母親大卒割合が学校間の差異と部分的に関連していた。学力や学校外学習時間などは正の関連で、母親大卒割合が高い学校にいる生徒の成績は高く、学習時間が長いことを意味している。一方で、負の推定値を示す携帯使用時間、親の学校疎外感、虫歯については、母親大卒割合が高い学校に通う生徒は携帯電話・スマートフォンの使用時間が短く、虫歯がなく、親が学校に対して疎外感を感じない傾向にあることを意味している。

表9 生徒と学校の二水準のマルチレベル分析の結果: 小学校6年生

	学力		携帯使用時間		学校外学習時間		親の学校関与	
	推定値	SE	推定値	SE	推定値	SE	推定値	SE
学校水準 (N= 138)								
切片	-0.287	0.030 ***	1.090	0.045 ***	9.821	0.203 ***	-0.083	0.033 *
母大卒割合	1.073	0.137 ***	-0.671	0.168 ***	6.284	0.964 ***	0.184	0.144
残差分散	0.030	0.006 ***	0.033	0.011 **	1.607	0.367 ***	0.022	0.006 ***
生徒水準	N=5589		N=5605		N=5605		N=5605	
女性	0.239	0.025 ***	-0.085	0.045	0.399	0.216	-0.071	0.030 *
母大卒	0.369	0.035 ***	-0.086	0.048	1.085	0.221 ***	0.243	0.031 ***
学力			-0.269	0.026 ***	1.346	0.117 ***	0.101	0.021 ***
グリット	0.214	0.017 ***	-0.099	0.023 ***	0.250	0.109 *	0.096	0.020 ***
残差分散	0.821	0.020 ***	1.381	0.049 ***	44.292	1.212 ***	0.932	0.028 ***
	学校外教育費		通塾		生徒の大学進学期待		親の大学進学期待	
	推定値	SE	推定値	SE	推定値	SE	推定値	SE
学校水準 (N= 138)								
切片/閾値	1.199	0.037 ***	0.958	0.070 ***	0.358	0.061 ***	-0.981	0.077 ***
母大卒割合	1.732	0.227 ***	2.365	0.317 ***	1.571	0.206 ***	3.225	0.309 ***
残差分散	0.081	0.018 ***	0.123	0.029 ***	0.044	0.014 **	0.095	0.027 **
生徒水準	N=5605		N=5589		N=5589		N=5589	
女性	-0.023	0.037	-0.093	0.070	-0.295	0.066 ***	-0.962	0.086 ***
母大卒	0.405	0.043 ***	0.436	0.069 ***	0.410	0.074 ***	0.861	0.078 ***
学力	0.252	0.020 ***	0.199	0.039 ***	0.509	0.034 ***	0.611	0.046 ***
グリット	0.069	0.019 ***	-0.051	0.035	0.062	0.036	0.126	0.035 ***
残差分散	1.456	0.054 ***						
	親の学校満足度		親の学校疎外感		虫歯		中学受験予定	
	推定値	SE	推定値	SE	推定値	SE	推定値	SE
学校水準 (N= 138)								
閾値	-1.847	0.085 ***	2.804	0.121 ***	1.529	0.088 ***	2.806	0.110 ***
母大卒割合	1.312	0.415 **	-0.686	0.903	-0.795	0.555	1.649	0.470 ***
残差分散	0.129	0.021 ***	0.015	0.001 ***	0.631	0.082 ***	0.338	0.063 ***
生徒水準	N=5589		N=5589		N=5623		N=5589	
女性	0.153	0.094	0.040	0.140	0.045	0.082	-0.024	0.111
母大卒	-0.047	0.087	-0.711	0.204 ***	-0.284	0.086 **	0.560	0.107 ***
学力	-0.016	0.053	-0.252	0.073 **	-0.334	0.037 ***	0.550	0.077 ***
グリット	0.155	0.046 **	-0.224	0.088 *	-0.029	0.044	0.137	0.055 *

* p < .05, ** p < .01, *** p < .001., SE = 標準誤差

小学校6年生の結果(表9)も似た傾向を示している。親の学校関与、親の学校疎外感、虫歯について関連はないが、他の教育指標については、学校の社会経済的文脈(母大卒割合)は学力や教育期待などの重要な教育指標と関連している。

表10 生徒と学校の二水準のマルチレベル分析の結果: 中学3年生

	学力		携帯使用時間		学校外学習時間		親の学校関与	
	推定値	SE	推定値	SE	推定値	SE	推定値	SE
学校水準 (N= 67)								
切片	-0.273	0.032 ***	1.457	0.043 ***	9.753	0.268 ***	-0.072	0.039
母大卒割合	1.278	0.184 ***	-1.530	0.200 ***	7.706	1.209 ***	0.648	0.152 ***
残差分散	0.017	0.005 **	0.014	0.010	0.895	0.259 **	0.021	0.007 *
生徒水準	N=4501		N=4518		N=4518		N=4518	
女性	0.080	0.022 ***	0.454	0.044 ***	1.216	0.212 ***	-0.100	0.036 **
母大卒	0.435	0.035 ***	-0.127	0.062 *	0.968	0.258 ***	0.244	0.031 ***
学力			-0.321	0.023 ***	1.481	0.137 ***	0.101	0.017 ***
グリット	0.285	0.018 ***	-0.117	0.026 ***	0.150	0.129	0.122	0.018 ***
残差分散	0.809	0.024 ***	1.766	0.042 ***	48.548	1.104 ***	0.924	0.019 ***
学校外教育費		通塾		生徒の大学進学期待		親の大学進学期待		
推定値	SE	推定値	SE	推定値	SE	推定値	SE	
学校水準 (N= 67)								
切片/閾値	2.507	0.055 ***	-0.747	0.087 ***	-0.220	0.067 ***	-0.849	0.076 ***
母大卒割合	1.752	0.335 ***	1.904	0.465 ***	2.844	0.515 **	3.184	0.718 ***
残差分散	0.064	0.016 ***	0.113	0.037 **	0.072	0.023 **	0.090	0.051
生徒水準	N=4518		N=4501		N=4501		N=4501	
女性	-0.072	0.048	0.088	0.088	-0.569	0.068 ***	-1.034	0.082 ***
母大卒	0.333	0.046 ***	0.484	0.090 ***	0.548	0.076 ***	0.897	0.093 ***
学力	0.189	0.033 ***	0.251	0.052 ***	0.783	0.056 ***	0.713	0.070 ***
グリット	0.043	0.030	0.038	0.043	0.199	0.046 ***	0.355	0.041 ***
残差分散	2.033	0.053 ***						
親の学校満足度		親の学校疎外感		虫歯				
推定値	SE	推定値	SE	推定値	SE			
学校水準 (N= 67)								
閾値	-1.055	0.070 ***	2.628	0.124 ***	1.114	0.173 ***		
母大卒割合	1.499	0.447 **	-1.383	0.528 **	-1.269	0.805		
残差分散	0.109	0.031 ***	0.081	0.014 ***	0.551	0.147 *		
生徒水準	N=4501		N=4501		N=4555			
女性	-0.126	0.075	0.166	0.164	-0.015	0.082		
母大卒	0.085	0.081	-0.317	0.146 *	-0.153	0.091		
学力	0.001	0.049	-0.091	0.075	-0.269	0.043 ***		
グリット	0.265	0.039 ***	-0.266	0.077 **	-0.095	0.047 ***		

* p < .05, ** p < .01, *** p < .001., SE = 標準誤差

同様に、中学校 3 年生の結果(表 10)も、虫歯の有無以外についてすべて高い母大卒割合が生徒の教育達成に対して有利な傾向となっている。すなわち、母親大卒割合が高い公立中学校に通う中学 3 年生の学力は高く、携帯使用時間は短く、学校外学習時間は長く、親は頻繁に学校に関与する一方、学校外教育に投資し、生徒は通塾する傾向にあり、親子共に将来の大学進学を期待し、親の学校満足度は高く疎外感は低い。

これらの結果、少なくとも本データで把握できる範囲においては、学校水準の社会経済的地位が多くの教育指標についての学校間格差を部分的に説明することが明らかになった。地域データという限界はあるが、地理的に限られた同じ行政区域内の公立学校であっても学校間に差があり、母親の大卒割合で示される学校水準の社会経済的地位と関連があることは、居住地域によって社会経済的文脈が異なり、それによって学校教育が左右されることを示している。

義務教育であっても通学する学校の教育環境は異なる。もちろん、学習指導要領のようなナショナル・カリキュラムであったり、国による財政的援助がなかったりすれば、これらの格差はより拡大すると考えられる。換言すれば、政策的に「面の平等」を志向したからこそ、学校間の格差がこの程度に抑えられているといえる。しかし、それは公立学校であっても学校間に社会経済的文脈による格差——学校教育環境の不平等がないことを意味しない。また、全国を対象とした教員データ (TALIS) を用いた研究 (Matsuoka 2015) が示すように、学校の社会経済的文脈によって教員の直面する困難も異なり、それは学校間の職務満足度格差と関連している。義務教育の中でも社会経済的な格差は様々な観点において学校間に存在し、その文脈の中で生徒や親のみならず教員も活動していることがわかる。「誰」が通っている学校か、「誰」が住んでいる校区 (近隣) なのか——社会経済的地位による学校間格差という実証的知見を前提とした政策的対応が求められる。

なお、本章は、多様かつ重要な指標についての学校間格差、そして、学校の社会経済的地位との関連を基礎資料として明らかにしたに過ぎない。今後は、社会経済的地位と学力などの指標がどのように関連しているか——社会経済的地位が教育指標に変換されるメカニズムを詳細に検討する必要がある。

< 註 >

- (1) 分析は Mplus 7.4 (Muthén and Muthén 1998-2015) によって行った。Normalized weight を使い、親票の欠損が多いので full information maximum likelihood (FIML) を適用した (FIML なしでも結果の傾向に変わりはない)。

< 参考文献 >

- 苅谷剛彦, 2009, 『教育と平等—大衆教育社会はいかに生成したか』中央公論新社。
- Matsuoka, Ryoji, 2013, “Socioeconomic Inequality between Schools and Junior High School Students’ Non-Academic Behavior: A Comparative Investigation of Compulsory Education Systems Using TIMSS 2007” 『比較教育学研究』 47, pp.140-59.
- Matsuoka, Ryoji, 2014a, “Disparities between Schools in Japanese Compulsory Education: Analyses of a Cohort Using TIMSS 2007 and 2011”, *Educational Studies in Japan: International Yearbook*, Vol. 8, pp.77-92.
- Matsuoka, Ryoji, 2014, "An Empirical Investigation of Relationships between Junior High School Students’ Family Socioeconomic Status, Parental Involvement and Academic Performance" 『理論と方法』 Vol. 29, No.1, pp.147-165.
- Matsuoka, Ryoji, 2015, “School Socioeconomic Context and Teacher Job Satisfaction in Japanese Compulsory Education”, *Educational Studies in Japan: International Yearbook*, Vol. 9, pp.41-54.
- Matsuoka, Ryoji and Maeda, Tadahiko, 2015. “Attitudes toward Education as Influenced by

Neighborhood Socioeconomic Characteristics: An Application of Multilevel Structural Equation Modeling”, *Behaviormetrika*, Vol.42, No.1, pp.19-35.

Muthén, Linda K., and Muthén, Bengt O., 1998-2015, *Mplus User's Guide (Seventh ed.)*, Muthén & Muthén.

第13章. 報告書のまとめと提案

川口俊明

1. 知見のまとめ

本報告書では、さまざまな分析が行われてきたが、そこに通底する主張・問題意識は、おおむね次の3点にまとめることができるだろう。それが、(1) 学力調査において SES 指標を取得することの重要性、(2) SES 指標を利用した多様な分析による教育格差の実態把握、(3) 教育行政におけるデータベースの整備である。以下、それぞれについて見ておこう。

(1) 学力調査において SES 指標を取得することの重要性

第一の主張は、学力調査において何らかの SES 指標を取得することが重要であるというものである。第2章や第3章で示したように、諸外国の学力調査では、さまざまな SES 指標の取得が、当然のこととして、調査・分析に組み込まれている。その意味では、全国学力・学習状況調査に、ほとんど SES 指標がないという現状が、そもそも問題だということができるだろう。

第6章や第7章の分析を見ればわかるように、本調査で取得した SES の代替指標は、学校・児童生徒の成績と関連を有している。特に第6章で見たように、学校レベルの SES 代替指標である「校区の大卒者割合」は、学校の平均正答数の分散の半分以上を説明しており、学校や教員の努力と関係ないところで学校の平均点が左右されている事態を強く示唆するものになっている。

全国学力・学習状況調査をめぐっては、学校の努力を促すために、学校ごとの平均点を公表する自治体も現れているが、本報告の結果を見れば、単純な平均点の比較は、SES と学力の関連を軽視していると言わざるを得ない。学力調査と保護者調査を同時に実施することは難しいかもしれないが、第6章から第8章の分析は、SES の代替指標として「校区の大卒者割合」や「家庭にある本の冊数」といった情報が有用であることを示している。これらの情報を入手・利用することは、決してハードルの高い作業ではない。全国学力・学習状況調査はもちろんのこと、各自治体の実施する学力調査においても、単に平均点を公表するのではなく、SES に関連する情報をあわせて検討することを求めたい。

なお、第7章の分析は、「家庭にある本の冊数」では、保護者調査から得られた SES 指標を完全に代替することは難しいことも示唆している。また、第8章で述べているように、現状では「家庭にある本の冊数」は SES の代替指標として有効だが、これが電子書籍の普及に伴い、どう変化するかもわからない。SES 代替指標の有効性について、今後も継続的に確認していくことが必要である。

(2) SES 指標を利用した多様な分析

第二の主張は、単に学力と SES 指標の関連を見るのみならず、多様な分析を行う必要があるという点である。本章の第 III 部では、さまざまな角度から、こうした分析の必要性を示した。第 9 章では、ジェンダーと SES 指標の交互作用を検討する中で、成績と SES の関連は、特に男子に顕著に見られることを指摘している。成績の男女差は、日本ではあまり話題に上らない要素である。しかし、TIMSS や PISA といった国際学力調査では、こうした成績の男女差は、教育に関わる重要な問題として認識されている。本報告の分析も、単に SES と成績の関連を分析するにとどまらず、ジェンダーも踏まえた分析の必要性を示している。

第 10 章の分析では、SES・非認知能力である Grit・多様な教育指標の関連について考察した。今回の分析は、あくまで一時点のスナップショットに過ぎず、因果関係に踏み込むようなものではない。しかし、Grit に代表される非認知能力を把握することは、SES と成績だけにとどまらない教育格差の実態把握と、格差克服への道筋を探るために重要である。SES・非認知能力・成績を含む教育指標の関連については、今後、継続的な調査を積み重ね、あらためて検討していく必要がある。

第 11 章では、学校教育における健康格差の実態について示した。日本の学校教育における健康格差は、これまでほとんど明らかになってこなかったが、自治体が持つデータを利用すれば、今すぐにでも把握することが可能である。学力のみならず、子どものあらゆる育ちについて、SES と関連づけた検討が求められている。

第 12 章では、公立小・中学校間にさまざまな格差が存在し、そこに SES が関わっていることを示した。日本では、学校は平等であるという神話が根強いいためか、学校間の差にあまり焦点が当たらない。しかし現実には、SES の高い学校もあれば、低い学校もある。こうした SES による学校間の差異をどのように改善していくかは、今後の教育研究・教育政策が問わなければならない重要な課題である。

(3) 教育行政におけるデータベースの整備

第三の主張は、教育行政がデータベースを整理するべきだということである。第 4 章で見たように、本来、自治体が所持するデータを利用した分析は、児童生徒・保護者・学校への負荷が少なく、精度も高いという点で、有効な方法である。今のところ日本では、データ整備が不十分であるために、自治体の持つ情報を活かすことが困難な状況にある。しかし、第 11 章で示したような健康格差の実態は、自治体が所持するデータを接続できれば、容易に明らかにすることができる。

データが整理されていないという問題は、第 5 章で指摘した調査対象者の脱落という問題とも繋がっている。全国学力・学習状況調査は、悉皆調査であり、一見、すべての児童生徒が調査対象になっているように見える。しかし、本報告が明らかにしたのは、欠席をはじめとする諸事情で、調査から漏れている児童生徒が存在する可能性があるということである。さらに、第 11 章の体力テストの分析は、体力テストの欠席が SES と繋がっている可能

性を示唆している。仮に、全国学力・学習状況調査の欠席が SES と関連しているとすれば、これは教育格差の実態把握という観点から見て、ゆゆしき問題と言わざるを得ない。

本調査で得られたデータからは、これ以上、こうした問題に踏み込むことはできないが、今後、教育格差の実態を把握する上で、また、SES の代替指標を入手する上でも、教育行政がデータベースを整備する必要があるといえる。

2. 全国学力・学習状況調査において有効な SES 代替指標は何か？

ここで、本研究に与えられた問いに答えておこう。現行の全国学力・学習状況調査において、SES の代理指標となる変数は何だろうか。この問いに対しては、今すぐに実行可能な短期的な回答と、これから時間をかけて取り組んでいくべき中長期的な回答に分けて答える必要がある。

まず、短期的な回答は、次の二つである。第一に、第 6 章で見たように、学校レベルの集計データを利用する場合は、すでに公開されている国勢調査と校区に関する情報を利用することで、「校区の大卒者割合」を推定することが可能である。そして、第 6 章の分析が示すように、この値は、保護者調査から得られる SES 指標よりも高い精度で学校の平均点を予測することができる。第二に、個人レベルで見た場合、第 7 章・第 8 章で検討したように、児童生徒質問紙を利用した「家庭にある本の冊数」が有効な代替指標となり得る。ただし、第 7 章や第 11 章の分析が示すように、その有効性には限界があるということも、あわせて指摘しておく必要がある。

次に、中長期的な回答としては、各自治体が所持する個々の児童生徒の「就学援助受給の有無」を利用していくことが有効な方法である。もちろん、第 4 章で検討したように、現状では自治体によって基準が異なるという問題や、容易に学力調査と接続可能なデータベースが整備・確立されていないという問題から、今すぐに実現することは難しい。しかし、第 3 章で触れたように、諸外国の事例を見ても、教育行政が所持するデータを学力調査と接続する試みは、決して珍しいものではない。データの整備は、学力に限らず、第 11 章や第 12 章で示したような、小中学校における多様な教育格差の把握も可能にするであろう。その意味でも、中長期的なデータ整備の必要性を、ここで訴えておきたい。

3. SES の把握を、どこから始めるべきか？

全国学力・学習状況調査に限らず、昨今では各地の自治体でも学力調査が実施されている。本報告の結果を踏まえれば、こうした各自治体が発行している学力調査にも、SES 代替指標を取り入れていくことが重要ということになるだろう。それでは、SES の把握は、どこから始めるべきだろうか。ここでは、実施のしやすさも考慮に入れた、チェックシートを示しておきたい。表 1 が、そのチェックシートである。基本的には、上から順に実施しやすい

選択肢を示したものになっている。

表 1. SES 代替指標のチェックシート

	方法	実現可能性と課題	実施している調査
<input type="checkbox"/>	公開データの利用 (校区の大卒者割合)	データの入手が容易 ある程度の分析技術が必要 学校レベルの情報しか得られない	本報告書
<input type="checkbox"/>	児童質問紙 (本の冊数)	実施は比較的容易 保護者調査と比べ、精度に難がある	本報告書 TIMSS PISA
<input type="checkbox"/>	児童質問紙 (保護者の学歴)	実施はやや難しい 保護者調査と比べ、精度に難がある	TIMSS PISA
<input type="checkbox"/>	保護者調査 (保護者の学歴)	実施は難しい 回収率に難がある 年収に比べれば、欠損になることは少ない	本報告書 TIMSS 全国学力・学習状況調査
<input type="checkbox"/>	保護者調査の年収	実施は難しい 回収率に難がある 回答拒否などで欠損することもある	本報告書 全国学力・学習状況調査
<input type="checkbox"/>	就学援助の有無	データの整備が課題 異なる自治体間で基準を統一する必要がある 保護者調査と比べ、精度はやや劣る 欠損が生じにくい	本報告書

上から順に見ていこう。一番容易なのは、公開データ（校区の大卒者割合）を利用することである。これは学校レベルの情報しか得られないものの、学校の平均点を予測する上で、非常に有効な SES 代替指標となる。ただ、自治体が利用する場合、学校ごとの SES 指標を計算する作業に、ある程度の分析技術が必要かもしれない。この点は、各地の大学や研究所などと連携して作業を進める必要があるだろう。また、第 6 章で触れたように、自治体によっては、校区の大卒者割合が SES の代替指標としてあまり有効ではない可能性がある。こうした自治体間の差異についても、認識しておく必要がある。

次に容易なのは、児童生徒質問紙で「家庭にある本の冊数」を聞くことである。学力調査を実施する際に、同時に生活実態調査も実施している自治体は少なくないため、これも比較的容易な方法であろう。先の「校区の大卒者割合」と同じく、すべての自治体で有効な SES 代替指標となるかどうかはわからないが、今後、全国学力・学習状況調査でその有効性が示されたならば、積極的に利用していくべき指標であると思われる。

三番目は、児童生徒質問紙を用いて、児童生徒に保護者の学歴を尋ねるという方法である。

これは、本研究では断念したものの、日本も参加している TIMSS や PISA といった国際学力調査で実施されている方法である。その意味では、自治体・学校の理解があれば、必ずしも不可能な方法とはいえない。全国規模の調査では難しいかもしれないが、SES の重要性を、学校・自治体が十分に理解できているのであれば、検討する価値がある。

四番目・五番目は、保護者調査による学歴、年収の把握である。これは、かなりハードルが高いだろう。とはいえ、全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）の保護者調査や、足立区の「子どもの健康・生活実態調査」⁽¹⁾など、教育行政が保護者調査を実施する前例はいくつかある。回収率や実施負担といった課題はあるものの、多様な SES に関わる情報が得られるという点で、実施する価値のある調査である。

なお、学歴と年収に関しては、必ずしも両方を質問する必要はない。本調査では SES を一つの合成指標として扱ったが、単独の変数で相関を検討した場合、表 2 に示したように、学歴の方が年収よりも、わずかに成績との相関が高い。また、年収は回答拒否が現れやすい設問でもあるため、いずれか一方しか得られないのであれば、まずは保護者の学歴を質問することも選択肢の一つである。実際、日本も実施している TIMSS2015 の保護者調査は、学歴しか尋ねていない。

ただし、これは年収を質問しなくてもよいという意味ではない。年収と成績の相関は高いし、子どもの貧困問題を検討するのであれば、年収に関する情報の取得はもちろん重要である。また、本報告で使用した保護者の学歴と年収を合成した SES 指標は、それぞれの変数を単独で使用するよりも成績と高い相関を示している。その意味では、両方の変数が得られるのであれば、その方が好ましいことは言うまでもない。あくまでも、もし仮に優先順位をつけるとすれば、学力調査に関しては、学歴の方が年収にわずかに勝るという程度の話に過ぎない。

表 2. 成績と学歴・年収・SES の相関

	小 4		小 6		中 3	
	国語	算数	国語	算数	国語	数学
学歴（父母いずれが大卒=1, それ以外=0）	0.25	0.27	0.26	0.27	0.25	0.31
年収	0.25	0.24	0.24	0.26	0.22	0.28
SES	0.33	0.34	0.31	0.34	0.31	0.39

最後に、就学援助受給の有無である。もっとも、自治体がデータベースさえ整理できるのであれば、これは児童生徒質問紙よりも容易な方法であることは、すでに指摘したとおりである。この順位は、あくまで日本の現状を踏まえた上でのものに過ぎない。今後、教育行政のデータベースが整理されれば、就学援助の有無は、もっとも容易な SES の代替指標となっていく可能性もある。

4. 最後に

本報告書は、全国学力・学習状況調査で運用可能な SES 代替指標を探求するという観点から、日本の教育格差に関わるさまざまな問題を探求してきた。その役目は十分果たしたと自負しているが、一方で本報告書では、十分に探求できなかった課題もある。特に残念なのは、やむを得ないとはいえ、同一個人を追跡するパネルデータの構築はできなかったという点である。

近年、諸外国の学力研究では、同一個人を追跡するパネルデータの分析が盛んである。その理由は、一時点のクロスセクションデータでは、因果関係を推定することがきわめて難しいという点に求められる（赤林・直井・敷島 2016）。確かに、本報告書でも指摘したように、保護者の年収と成績の間には関連がある。しかし、これは、家庭に金銭的な支援をすれば、子どもの成績が向上するという因果関係を意味していない。なぜなら、仮に小学校1年生の時点の保護者の年収が成績に決定的な影響を与えており、後の年収はほとんど関連がないというのが実態だったとしても、本調査で得られたような年収と成績の関連が観測できるからである。家庭への金銭的な支援が子どもの成績を向上させるのかどうかを検討したければ、同一個人を追跡するパネルデータの構築が必要である。

これは、年収以外の要因にも当てはまる。たとえば、生活習慣の改善が成績を向上させるのかどうかは、複数時点の生活習慣を測定しなければわからない。当然のことだが、複数時点の SES 指標の取得も必要である。こうしたデータを得ることは、現在の日本の状況では、きわめて難しい。この点は、本報告書でも克服できなかった課題であり、今後、日本の学力調査の改善が望まれる点である。

とはいえ、SES に関わる情報が得にくいという日本の学力調査の現状から考えれば、本報告書の情報は十二分に貴重なものである。特に、第 III 部で示した各種の分析は、これまで日本の学校を通じた学力調査では、ほとんど検討されてこなかったものばかりである。こうした教育格差の実態把握を、本報告書の成果を持って終わりにするのではなく、さらに超えていくことができるように、今後の日本の学力調査が改善されていくことを願って、本報告書のまとめとする。

<註>

- (1) 調査の詳細については、足立区のウェブサイト「未来へつなぐあだちプロジェクト (<https://www.city.adachi.tokyo.jp/sesaku/miraihetunaguadachipurojekuto.html>)」を参照のこと。

<参考文献>

赤林英夫・直井道生・敷島千鶴編著、2016、『学力・心理・家庭環境の経済分析』有斐閣。

付録

資料【児童生徒質問紙・保護者質問紙・学校質問紙】

整理番号								
------	--	--	--	--	--	--	--	--

平成28年度 文部科学省委託事業

(学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究)

じどう ちようさ 児童アンケート調査

ねが お願い

これは、テストではありません。みなさんの毎日の生活の様子や考えをきいて、これからのみなさんの学習や学校生活に役立てようとするものです。思ったことをそのまま答えてください。

◆最初に、表紙に学年・クラス・出席番号を書いてください。あなたの名前は書けません。この情報は、アンケート用紙を整理するために使うだけです。あなたが何と答えたかは、学校の先生にはわかりません。

◆回答が終わったあと、アンケート用紙は袋に入れて回収します。

◆わからない質問や、答えたくない質問には、無理に答えずに構いません。

こた 答えかた

あなたはハンバーグが好きですか。

とても好き 好き ふつう きれい とてもきれい
1 ——— ② ——— 3 ——— 4 ——— 5

あなたが、ハンバーグを「好き」だと思ったら、上のように番号のところを○でかこんでください。

調査企画： 国立大学法人福岡教育大学

() 年 () 組 () 番

1. あなたは何月なんがつ生まれですか。生まれた月つきを書いてください。

() 月がつ生まれ

2. あなたは女おんなですか、男おとこですか。あてはまる番号ばんごうに一つ○をつけてください。

1. 女おんな 2. 男おとこ

3. あなたは、幼稚園ようちえんや保育所ほいくしょ（保育園ほいくえん）に通かよいましたか。あてはまる番号ばんごうに一つ○をつけてください。
両方りょうほうに通かよった人は、最後さいごに通かよった方ほうに○をつけてください。

1. 幼稚園ようちえんに通かよっていた
2. 保育所ほいくしょ（保育園ほいくえん）に通かよっていた
3. どちらにも通かよっていない

4. あなたが一緒いっしょに住すんでいる人は、次つぎのうち誰だれですか。

(ア)～(カ)のそれぞれについて、あてはまる番号ばんごうに一つ○をつけてください。

お父さんとうが単身赴任たんしんふにんしている場合ばあいなどは、一緒いっしょに住すんでいると考かんがえます。

	一緒 <small>いっしょ</small> に住 <small>す</small> んでいる	住 <small>す</small> んでいない
(ア) お父さん <small>とう</small>	1	2
(イ) お母さん <small>かあ</small>	1	2
(ウ) お兄さん <small>にい</small> やお姉さん <small>ねえ</small>	1	2
(エ) 弟 <small>おとうと</small> や妹 <small>いもうと</small>	1	2
(オ) おじいさんやおばあさん	1	2
(カ) その他 <small>ほか</small> の人 <small>ひと</small>	1	2

5. あなたの家いえには、およそどのくらい本ほんがありますか。あてはまる番号ばんごうに一つ○をつけてください。

(ただし、ざっししんぶん、新聞きょうかしょ、教科書かぞは数えません)

1. 0 ～ 10さつ
2. 11 ～ 25さつ
3. 26 ～ 100さつ
4. 101 ～ 200さつ
5. 200さつより多おほい

6. あなたは、小学校に入る前に、お家の人に絵本や本を読んでもらったことがありますか。
 あてはまる番号に一つ○をつけてください。

1. よくあった
2. ときどきあった
3. あまりなかった
4. なかった

7. あなたの家には、次のものがありますか。

(ア) ~ (サ) のそれぞれについて、あてはまる番号に一つ○をつけてください。

	ある	ない
(ア) 自分のコンピュータまたはタブレット	1	2
(イ) 家の他の人と共有しているコンピュータまたはタブレット	1	2
(ウ) 自分の勉強づくえ	1	2
(エ) 自分の部屋	1	2
(オ) インターネット	1	2
(カ) 自分のけい帯電話	1	2
(キ) ゲーム機 (PlayStation®, Wii®, Xbox® など)	1	2
(ク) ピアノ	1	2
(ケ) DVDプレイヤー	1	2
(コ) 食器洗い機	1	2
(サ) 毎日とどく新聞	1	2

8. あなたは、おけいこや学校外のクラブに通っていますか。

行っているものや、やっているもの全部に○をつけてください。

1. 音楽 (ピアノ、バイオリン、エレクトーンなど)
2. 習字
3. そろばん
4. スポーツ (水泳、剣道、柔道、たいそう、野球、サッカーなど)
5. 英語
6. 絵
7. バレエ・ダンス
8. その他 (具体的に)
9. 何もしていない

9. あなたの^{いえ}家では、^{いっしゅうかん}一週間のうち、^{つぎ}次のことがどのくらいありますか。

(ア) ~ (オ) のそれぞれについて、^{ばんごう}あてはまる番号に一つ〇をつけてください。

	^{まいにち} ほぼ毎日	^{しゅう} 週に3~4日	^{しゅう} 週に1~2日	^{にち} ほとんどない
(ア) ^{うち} お家の人が ^{テレビ} で ^{ニュース} 番組を見る	1	2	3	4
(イ) ^{うち} お家の人が ^本 (マンガや ^{雑誌} はのぞきます) を ^よ 読む	1	2	3	4
(ウ) ^{うち} お家の人が ^{新聞} を読む	1	2	3	4
(エ) ^{うち} お家の人が ^{パソコン} (タブレット ^{端末} を含む) を ^{つか} 使う	1	2	3	4
(オ) ^よ 読んだ ^本 (マンガや ^{雑誌} はのぞきます) の ^{ないよう} 内容について ^{うち} お家の人と ^{はなし} 話をする	1	2	3	4

10. ^{きょねんいちねんかん}去年一年間をふりかえって、あなたの^{いえ}家では、^{つぎ}次のことがどのくらいありましたか。

(ア) ~ (オ) のそれぞれについて、^{ばんごう}あてはまる番号に一つ〇をつけてください。

	^{つき} 月に ^{かいじょう} 1回以上	^{げつ} 2~3ヶ月に ^{かい} 1回	^{はんねん} 半年に ^{かい} 1回	^{ねん} 1年に ^{かい} 1回	^つ 連れていって もらったことはない
(ア) ^{うち} お家の人に ^{としよかん} 図書館に ^つ 連れていってもらった	1	2	3	4	5
(イ) ^{うち} お家の人に ^{はくぶつかん} 博物館や ^{びじゆつかん} 美術館に ^つ 連れていってもらった	1	2	3	4	5
(ウ) ^{うち} お家の人に ^{ミュージカル} や ^{クラシック} ^{コンサート} に ^つ 連れていってもらった	1	2	3	4	5
(エ) ^{うち} お家の人に ^{こくないりょこう} 国内旅行に ^つ 連れていってもらった	1	2	3	4	5
(オ) ^{うち} お家の人に ^{かりがいらりょこう} 海外旅行に ^つ 連れていってもらった	1	2	3	4	5

11. ^{じしん}ふだんのあなた自身のことについてお聞きします。

(ア) ~ (キ) のそれぞれについて、^{ばんごう}あてはまる番号に一つ〇をつけてください。

	^{すこし} あてはまる			^{あまり} あてはまらない	
	あてはまる	あてはまる	どちらでもない	あてはまらない	あてはまらない
(ア) ^{じゆぎょうちゆう} 授業中は、 ^{じぶん} 自分がやることに ^{しゆうちゆう} 集中している	1	2	3	4	5
(イ) ^{じゆんぱん} ルールや順番を守っている	1	2	3	4	5
(ウ) ^{じぶん} 自分の部屋やつくえのまわりが ^ち 散らかっている	1	2	3	4	5
(エ) ^{なに} 何かを始めたら、 ^お ぜったいに ^お 終わらせる	1	2	3	4	5
(オ) ^{しゆくだい} 宿題を終わらせてから、 ^{あそ} 遊ぶようにしている	1	2	3	4	5
(カ) よく ^き 気がちってしまうことがある	1	2	3	4	5
(キ) やらないといけないことはきちんとやる	1	2	3	4	5

12. 去年一年間をふりかえって、次のことがどのくらいありましたか。

(ア) ~ (ク) のそれぞれについて、あてはまる番号に一つ○をつけてください。

	ほとんど ない	つき 月に 1回	つき 月に 2~3回	いっしょうかん 一週間に 1回	すく 少なくとも いちにち 一日に1回
(ア) じゅ業で必要なものをわすれた	1	2	3	4	5
(イ) ほかに子たちが話をしているときに、 その子たちのじゃまをした	1	2	3	4	5
(ウ) 何からんぼうなことを言った	1	2	3	4	5
(エ) つくえや部屋が散らかっていたので、 必要なものを見つけることができなかった	1	2	3	4	5
(オ) 家や学校で、頭にきて人やものにあたった	1	2	3	4	5
(カ) 先生が言っていたことを思い出せなかった	1	2	3	4	5
(キ) きちんと話を聞かないといけないときに ぼんやりしていた	1	2	3	4	5
(ク) イライラして、先生やお家の人に口答えをした	1	2	3	4	5

13. あなたは、勉強するときに、次のことがどれくらいありますか。

(ア) ~ (ソ) のそれぞれについて、あてはまる番号に一つ○をつけてください。

	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
(ア) くり返し書いておぼえる	1	2	3	4
(イ) 声に出しておぼえる	1	2	3	4
(ウ) 大切だと思うことを自分でノートにまとめる	1	2	3	4
(エ) 今勉強していることを、すでに知っていることと 結びつける	1	2	3	4
(オ) 問題を解いた後にほかの解き方がないかを考える	1	2	3	4
(カ) 図や表に書いて考える	1	2	3	4
(キ) わからない言葉を辞書で調べる	1	2	3	4
(ク) わからないところがあったら先生に聞く	1	2	3	4
(ケ) わからないところがあったら友だちに聞く	1	2	3	4
(コ) 計画を立てて勉強する	1	2	3	4
(サ) 勉強の計画がうまく進んでいなければ見直す	1	2	3	4
(シ) 何から勉強したらよいか順番を考える	1	2	3	4
(ス) 重要なところはどこかを考えて勉強する	1	2	3	4
(セ) 何がわかっていないか確かめながら勉強する	1	2	3	4
(ソ) テストで間違えた問題をやり直す	1	2	3	4

14. 以下の文章は、ほかの人たちとくらべて、あなた自身のことにとどれくらいあてはまるか番号で答えてください。この質問に、正しい答えやまちがっている答えはありません。自分があてはまると思うものを正直におしえてください。

まったく あまり すこし よく とてもよく
あてはまらない あてはまらない あてはまる あてはまる あてはまる

- | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (ア) 新しい考えや計画を思いつくと、
前のことから気がそれてしまうことがあります | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | — | 5 |
| (イ) ぼく／わたしは、がっかりしたあと、
ほかの人よりも立ち直るのがはやいです | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | — | 5 |
| (ウ) 少しの間、ある考えや計画のことで頭がいっぱいになっても、しばらくするとあきてしまいます | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | — | 5 |
| (エ) がんばりやさんです | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | — | 5 |
| (オ) いったん目標を決めてから、
そのあと別の目標に変えることがよくあります | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | — | 5 |
| (カ) 終わるまでに何か月もかかるようなことに
集中しつづけることができません | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | — | 5 |
| (キ) 始めたことはなんでも最後まで終わらせます | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | — | 5 |
| (ク) まじめにコツコツとやるタイプです | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | — | 5 |

15. あなたは、どこかの中学校（私立中学校や大学の附属中学校、中高一貫校など）を受験しようと思っていますか。あてはまる番号に一つ○をつけてください。

1. はい
2. まだ決めていない
3. いいえ

16. あなたは、^{しょうらい}将来、どの^{がっこう}学校まで^{すす}進みたいと思^{おも}いますか。
あてはまる^{ばんごう}番号に一つ^{ひと}〇をつけてください。

1. ^{ちゅうがっこう}中学校まで
2. ^{こうこう}高校まで
3. ^{せんもんがっこう}専門学校・^{かくしゅがっこう}各種学校まで
4. ^{たんきだいがく}短期大学まで
5. ^{だいがく}大学まで
6. ^{だいがくいん}大学院まで
7. まだ^き決めていない

これで^{しつもん}質問は^お終わりです。ご^{きょうりょく}協力ありがとうございました。

整理番号								
------	--	--	--	--	--	--	--	--

平成28年度 文部科学省委託事業

(学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究)

せいと ちようさ 生徒アンケート調査

ねが お願い

これは、テストではありません。みなさんの毎日の生活の様子や考えをきいて、これからのみなさんの学習や学校生活に役立てようとするものです。思ったことをそのまま答えてください。

◆最初に、表紙に学年・クラス・出席番号を書いてください。あなたの名前は書きません。この情報は、アンケート用紙を整理するために使うだけです。あなたが何と答えたかは、学校の先生にはわかりません。

◆回答が終わったあと、アンケート用紙は袋に入れて回収します。

◆わからない質問や、答えたくない質問には、無理に答えずに構いません。

こた 答えかた

あなたはハンバーグが好きですか。

とても好き 好き ふつう 嫌い とても嫌い
1 — 2 — 3 — 4 — 5

あなたが、ハンバーグを「好き」だと思ったら、上のように番号のところを○でかこんでください。

調査企画： 国立大学法人福岡教育大学

() 年 () 組 () 番

1. あなたは何月生まれですか。生まれた月を書いてください。

() 月生まれ

2. あなたは女ですか、男ですか。あてはまる番号に一つ○をつけてください。

1. 女 2. 男

3. あなたは、幼稚園や保育所（保育園）に通いましたか。あてはまる番号に一つ○をつけてください。
両方に通った人は、最後に通った方に○をつけてください。

1. 幼稚園に通っていた
2. 保育所（保育園）に通っていた
3. どちらにも通っていない

4. あなたが一緒に住んでいる人は、次のうち誰ですか。

(ア)～(カ)のそれぞれについて、あてはまる番号に一つ○をつけてください。

お父さんが単身赴任している場合などは、一緒に住んでいると考えます。

	一緒に住んでいる	住んでいない
(ア) お父さん	1	2
(イ) お母さん	1	2
(ウ) お兄さんやお姉さん	1	2
(エ) 弟や妹	1	2
(オ) おじいさんやおばあさん	1	2
(カ) その他の人	1	2

5. あなたの家には、およそどのくらい本がありますか。あてはまる番号に一つ○をつけてください。

(ただし、一般の雑誌、新聞、教科書は数えません)

1. 0 ～ 10冊
2. 11 ～ 25冊
3. 26 ～ 100冊
4. 101 ～ 200冊
5. 200冊より多い

6. あなたは、小学校に入る前に、お家の人に絵本や本を読んでもらったことがありますか。
 あてはまる番号に一つ○をつけてください。

1. よくあった
2. ときどきあった
3. あまりなかった
4. なかった

7. あなたの家には、次のものがありますか。

(ア) ~ (サ) のそれぞれについて、あてはまる番号に一つ○をつけてください。

	ある	ない
(ア) 自分のコンピュータまたはタブレット	1	2
(イ) 家の他の人と共有しているコンピュータまたはタブレット	1	2
(ウ) 自分の勉強づくえ	1	2
(エ) 自分の部屋	1	2
(オ) インターネット	1	2
(カ) 自分の携帯電話	1	2
(キ) ゲーム機 (PlayStation®, Wii®, Xbox® など)	1	2
(ク) ピアノ	1	2
(ケ) DVDプレイヤー	1	2
(コ) 食器洗い機	1	2
(サ) 毎日とどく新聞	1	2

8. あなたは、おけいこや学校外のクラブに通っていますか。

行っているものや、やっているもの全部に○をつけてください。

1. 音楽 (ピアノ、バイオリン、エレクトーンなど)
2. 習字
3. そろばん
4. スポーツ (水泳、剣道、柔道、体操、野球、サッカーなど)
5. 英語
6. 絵
7. バレエ・ダンス
8. その他 (具体的に)
9. 何もしていない

9. あなたの^{いえ}家では、一週間のうち、次のことがどのくらいありますか。

(ア) ~ (オ) のそれぞれについて、あてはまる^{ばんごう}番号に一つ〇をつけてください。

	ほぼ毎日 まいにち	週に3~4日 しゅうに3~4にち	週に1~2日 しゅうに1~2にち	ほとんどない
(ア) お家の人がテレビでニュース番組を見る	1	2	3	4
(イ) お家の人が本(マンガや雑誌はのぞきます)を読む	1	2	3	4
(ウ) お家の人が新聞を読む	1	2	3	4
(エ) お家の人がパソコン(タブレット端末を含む)を使う	1	2	3	4
(オ) 読んだ本(マンガや雑誌はのぞきます)の内容について お家の人と話をする	1	2	3	4

10. 去年一年間をふりかえって、あなたの家では、次のことがどのくらいありましたか。

(ア) ~ (オ) のそれぞれについて、あてはまる^{ばんごう}番号に一つ〇をつけてください。

	月に 1回以上 げつに 1かいじょう	2~3ヶ月に 1回 げつに 1かい	半年に 1回 はんねん 1かい	1年に 1回 1ねん 1かい	連れていって もらったことはない
(ア) お家の人に図書館に連れていってもらった	1	2	3	4	5
(イ) お家の人に博物館や美術館に 連れていってもらった	1	2	3	4	5
(ウ) お家の人にミュージカルやクラシック コンサートに連れていってもらった	1	2	3	4	5
(エ) お家の人に国内旅行に連れていってもらった	1	2	3	4	5
(オ) お家の人に海外旅行に連れていってもらった	1	2	3	4	5

11. ふだんのあなた自身のことについてお聞きします。

(ア) ~ (キ) のそれぞれについて、あてはまる^{ばんごう}番号に一つ〇をつけてください。

	あてはまる	すこし あてはまる	どちらでもない	あまり あてはまらない	あてはまらない
(ア) 授業中は、自分がやることに集中している	1	2	3	4	5
(イ) ルールや順番を守っている	1	2	3	4	5
(ウ) 自分の部屋やつくえのまわりが散らかっている	1	2	3	4	5
(エ) 何かを始めたら、ぜったいに終わらせる	1	2	3	4	5
(オ) 宿題を終わらせてから、遊ぶようにしている	1	2	3	4	5
(カ) よく気がちってしまうことがある	1	2	3	4	5
(キ) やらないといけないことはきちんとやる	1	2	3	4	5

12. 去年一年間をふりかえって、次のことがどのくらいありましたか。

(ア) ~ (ク) のそれぞれについて、あてはまる番号に一つ〇をつけてください。

	ほとんど ない	つき 月に 1回	つき 月に 2~3回	いっしゅうかん 一週間に 1回	すく 少なくとも いちにち 一日に1回
(ア) 授業で必要なものをわすれた	1	2	3	4	5
(イ) ほかの子たちが話をしているときに、 その子たちのじゃまをした	1	2	3	4	5
(ウ) 何からんぼうなことを言った	1	2	3	4	5
(エ) つくえや部屋が散らかっていたので、 必要なものを見つけることができなかった	1	2	3	4	5
(オ) 家や学校で、頭にきて人やものにあたった	1	2	3	4	5
(カ) 先生が言っていたことを思い出せなかった	1	2	3	4	5
(キ) きちんと話を聞かないといけないときに ぼんやりしていた	1	2	3	4	5
(ク) イライラして、先生やお家の人に口答えをした	1	2	3	4	5

13. あなたは、勉強するときに、次のことがどれくらいありますか。

(ア) ~ (ソ) のそれぞれについて、あてはまる番号に一つ〇をつけてください。

	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
(ア) くり返し書いておぼえる	1	2	3	4
(イ) 声に出しておぼえる	1	2	3	4
(ウ) 大切だと思うことを自分でノートにまとめる	1	2	3	4
(エ) 今勉強していることを、すでに知っていることと 結びつける	1	2	3	4
(オ) 問題を解いた後にほかの解き方がないかを考える	1	2	3	4
(カ) 図や表に書いて考える	1	2	3	4
(キ) わからない言葉を辞書で調べる	1	2	3	4
(ク) わからないところがあったら先生に聞く	1	2	3	4
(ケ) わからないところがあったら友だちに聞く	1	2	3	4
(コ) 計画を立てて勉強する	1	2	3	4
(サ) 勉強の計画がうまく進んでいなければ見直す	1	2	3	4
(シ) 何から勉強したらよいか順番を考える	1	2	3	4
(ス) 重要なところはどこかを考えて勉強する	1	2	3	4
(セ) 何がわかっていないか確かめながら勉強する	1	2	3	4
(ソ) テストで間違えた問題をやり直す	1	2	3	4

14. 以下の文章は、ほかの人たちとくらべて、あなた自身のことにどれくらいあてはまるか番号で答えてください。この質問に、正しい答えやまちがっている答えはありません。自分があてはまると思うものを正直におしえてください。

まったく あまり 少し よく とてもよく
あてはまらない あてはまらない あてはまる あてはまる あてはまる

- | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (ア) 新しい考えや計画を思いつくと、
前のことから気がそれてしまうことがあります | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | — | 5 |
| (イ) ぼく／わたしは、がっかりしたあと、
ほかの人よりも立ち直るのがはやいです | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | — | 5 |
| (ウ) 少しの間、ある考えや計画のことで頭がいっぱいになっても、しばらくするとあきてしまいます | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | — | 5 |
| (エ) がんばりやさんです | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | — | 5 |
| (オ) いったん目標を決めてから、
そのあと別の目標に変えることがよくあります | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | — | 5 |
| (カ) 終わるまでに何か月もかかるようなことに
集中しつづけることができません | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | — | 5 |
| (キ) 始めたことはなんでも最後まで終わらせます | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | — | 5 |
| (ク) まじめにコツコツとやるタイプです | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | — | 5 |

15. あなたは、将来、どの学校まで進みたいと思いますか。
あてはまる番号に一つ○をつけてください。

1. 中学校まで
2. 高校まで
3. 専門学校・各種学校まで
4. 短期大学まで
5. 大学まで
6. 大学院まで
7. まだ決めていない

これで質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

整理番号								
------	--	--	--	--	--	--	--	--

平成28年度 文部科学省委託事業

(学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究)

保護者アンケート調査

本調査は、平成28年度の文部科学省委託事業（学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究）の一環として、小学校4年生・6年生または中学校3年生のお子さんがいらっしゃる保護者の方に、日頃のお子さんとの関わりや教育についてのお考えを伺うものです。アンケートの結果は、全国学力・学習状況調査等のデータと合わせて分析し、教育施策に役立てることを目的としています。

調査の趣旨をご理解いただき、アンケートへのご協力をお願いします。

- ◆お名前は無記入でお願いします。アンケートの回答は統計的に処理し、個人や学校を特定することはございません。
- ◆アンケートへの回答にあたってご不明な点がございましたら、このアンケート用紙が入っていた封筒、同封されている依頼状に記載されている連絡先までお問い合わせください。
- ◆アンケートに回答いただきましたら、同封の提出用封筒に入れ、封をした上で、締切※までに学校にご提出ください。開封作業やデータの入力は委託業者が行い、学校では開封しません。

※締切は、このアンケート用紙が入っていた封筒、同封されている依頼状に記載されています。

お忙しいところ、大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、調査にご協力いただけないという場合には、下の点線枠内の□にチェックしていただき、そのままこのアンケート用紙を提出用封筒に入れ、封をした上で、学校にご提出ください。

<input type="checkbox"/> 調査に協力できない

調査企画： 国立大学法人福岡教育大学

アンケート記入にあたってのお願い

- このアンケートで「お子さん」とは、このアンケート用紙が入っていた封筒を持ち帰った小学校4年生・6年生または中学校3年生のお子さんのことをさします。以下では、このアンケート用紙が入っていた封筒を持ち帰ったお子さんについてのみお答えください。
- ごきょうだいなどで、このアンケート用紙が複数届いた場合も、お手数ですが、それぞれのお子さんについて、それぞれのアンケート用紙に回答してください。
- 答えにくい質問があるかもしれませんが、あまり考え込まず、お答えになれる範囲で回答してください。
- 番号が示されている場合には、あてはまる番号に○をつけてください。また、必要なところはご記入をお願いします。

最初に調査対象となっているお子さんのことについておたずねします。

1. お子さんとあなたの続柄を教えてください。

※お子さんから見た続柄で回答してください

※父親・母親には、配偶関係・パートナー・内縁関係の方などを含みます

1. 父親
2. 母親
3. 祖父
4. 祖母
5. その他（具体的に： ）

2. お子さんから見た場合の兄弟姉妹の人数を（ ）内に記入してください。

（いらない場合は「0」をご記入ください）

お子さんのきょうだい数

兄（ ）人	姉（ ）人
弟（ ）人	妹（ ）人

3. お子さんのご家族について、あてはまる方の番号すべてに○をつけてください。

ご家族とは、家計を一緒にし、ふだん一つの家屋で生活している方を指します。

※単身赴任・入院等、家計を一緒にしており、定期的に帰宅する方は家族に含めてください。

1. 父親
2. 母親
3. 祖父
4. 祖母
5. 兄
6. 姉
7. 弟
8. 妹
9. その他の親族
10. 親族以外の同居者

4. お子さんのふだんの生活や勉強について、次のことがどれくらいあてはまりますか。

(ア) ~ (ク) のそれぞれについて、あてはまる番号に一つ〇をつけてください。

	すこし			あまり					
	あてはまる	あてはまる	どちらでもない	あてはまらない	あてはまらない	あてはまらない			
(ア) 授業で必要なものを忘れることがある	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(イ) 何か乱暴なことを言うことがある	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(ウ) きちんと話を聞かないといけないうきに ぼんやりしていることがある	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(エ) イライラして、先生や家の人に 口答えをすることがある	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(オ) ルールや順番を守っている	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(カ) 部屋や机のまわりが散らかっている	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(キ) よく気が散ってしまうことがある	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(ク) 宿題を終わらせてから、遊んでいる	1	—	2	—	3	—	4	—	5

5. お子さんは、ほかの子たちとくらべて、次のことがどれくらいあてはまりますか。

(ア) ~ (ク) のそれぞれについて、あてはまる番号に一つ〇をつけてください。

	すこし			あまり					
	あてはまる	あてはまる	どちらでもない	あてはまらない	あてはまらない	あてはまらない			
(ア) 新しい考えや計画を思いつくと 前のことから気がそれてしまう	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(イ) がっかりしたあと、 他の子よりも立ち直るのが早い	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(ウ) 少しの間、ある考えや計画で頭がいっぱいに なっても、しばらくすると飽きてしまう	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(エ) 頑張り屋である	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(オ) いったん目標を決めてから、そのあと 別の目標に変えることがよくある	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(カ) 終わるまでに何ヶ月もかかるようなことに 集中し続けることができない	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(キ) 始めたことは何でも最後まで終わらせる	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(ク) まじめにコツコツとやるタイプである	1	—	2	—	3	—	4	—	5

つぎ こ きょういく たい かんが かつ
次に、お子さんの教育に対する考え方についておたずねします。

6. お子さんが小学校に入るまでに、家庭でどれくらい絵本や本（図鑑を含む）の読み聞かせをしましたか。あてはまる番号に一つ〇をつけてください。

1. ほとんど毎日
2. 週に3～4日
3. 週に1～2日
4. 月に1～3日
5. ほとんどしなかった

7. あなたの家には、およそどのくらい本がありますか。あてはまる番号に一つ〇をつけてください。
(ただし、一般の雑誌、新聞、教科書は数えません)

1. 0 ～ 10冊
2. 11 ～ 25冊
3. 26 ～ 100冊
4. 101 ～ 200冊
5. 200冊より多い

8. 去年一年間をふりかえって、次のことがどのくらいありましたか。
(ア)～(オ)のそれぞれについて、あてはまる番号に一つ〇をつけてください。

	月に 1回以上	2～3ヶ月に 1回	半年に 1回	1年に 1回	連れていった ことはない
(ア) お子さんを図書館に連れていった	1	2	3	4	5
(イ) お子さんを博物館や美術館に連れていった	1	2	3	4	5
(ウ) お子さんをミュージカルやクラシック コンサートに連れていった	1	2	3	4	5
(エ) お子さんを国内旅行に連れていった	1	2	3	4	5
(オ) お子さんを海外旅行に連れていった	1	2	3	4	5

9. お子さんが勉強をすることに対する、あなたのお考えをおたずねします。

(ア) ~ (エ) のそれぞれについて、あてはまる番号に一つ○をつけてください。

	よく	すこし	あまり	まったく			
	あてはまる	あてはまる	あてはまらない	あてはまらない			
(ア) 将来子どもが <u>つきたい</u> 仕事に <u>役立つ</u> そうだから、 勉強は <u>がんばる</u> 価値がある	1	——	2	——	3	——	4
(イ) 将来の <u>子ども</u> の仕事の <u>可能性</u> を <u>広げ</u> てくれるから、 勉強をする価値がある。	1	——	2	——	3	——	4
(ウ) 将来子どもが勉強したい <u>こと</u> に <u>必要</u> だから、 今勉強することは <u>重要</u> である	1	——	2	——	3	——	4
(エ) <u>たくさん</u> のことを勉強すれば、 仕事を見つける <u>際</u> に <u>役立つ</u>	1	——	2	——	3	——	4

10. お子さんが、現在されている習い事に、すべて○をつけてください。

1. 音楽 (ピアノ、バイオリン、エレクトーンなど)
2. 習字
3. そろばん
4. スポーツ (水泳、剣道、柔道、体操、野球、サッカーなど)
5. 英会話などの語学教室
6. 絵画などの芸術
7. バレエ・ダンス
8. 学習塾
9. その他 (具体的に)
10. 何もしていない

11. このアンケート用紙の対象となっているお子さん一人について、
学校以外の教育 (学習塾や習い事) にかかる1か月あたりの平均の支出はどれくらいですか。
あてはまる番号に一つ○をつけてください。

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 支出はまったくない | 5. 2万円以上 ~ 3万円未満 |
| 2. 5千円未満 | 6. 3万円以上 ~ 5万円未満 |
| 3. 5千円以上 ~ 1万円未満 | 7. 5万円以上 |
| 4. 1万円以上 ~ 2万円未満 | |

1 2. お子さんが、小学校入学前しょうがっこうにゅうがくまえに通かよっていたところをお答えください。
複数たぐさう通かよっていた場合は、最後さいごに通かよっていた施設しせつをお答えください。

1. 国立・公立の幼稚園こくりつ こうりつ ようちえんに通かよっていた
2. 私立の幼稚園しりつ ようちえんに通かよっていた
3. 国立・公立の保育所こくりつ こうりつ ほいくじょに通かよっていた
4. 私立の保育所しりつ ほいくじょに通かよっていた
5. 認可外施設にんかがいしせつに通かよっていた
6. その他（具体的に：）
7. 通かよっていたところはない

1 3. あなたは、お子さんにどの段階だんかいの学校がっこうまで進すすんでほしいと思おもっていますか。
現在げんざいのお考かんがえにもっとも近いものちかを一つ選ひとんで、番号ばんごうに○をつけてください。

1. 中学校ちゅうがっこうまで
2. 高校こうこうまで
3. 専門学校せんもんがっこう・各種学校かくしゆがっこうまで
4. 短期大学たんきだいがく・高等専門学校こうとうせんもんがっこうまで
5. 大学だいがくまで
6. 大学院だいがくいんまで
7. その他（具体的に：）
8. わからない

1 4. 小学生のお子さんをお持ちの方かたにのみうかがいます。
お子さんは私立しりつ中学校ちゅうがっこうや国立こくりつ中学校ちゅうがっこう、公立こうりつ中高一貫校ちゅうこういつかんこうを受うける予定よていですか。
あてはまる番号ばんごうに一つ○をつけてください。

1. 受うける
2. 受うけない
3. まだ決きめていない

つぎに、おこさんが通われている学校のことについておたずねします。

15. あなたは、学校の取組について満足していますか。(ア)～(キ)のそれぞれについて、あてはまる番号に一つ〇をつけてください。お子さんの学年によって答えにくい項目があれば、とばしていただいてけっこうです。

	とても満足している	まあ満足している	あまり満足していない	まったく満足していない
(ア) 教科の学習指導	1	2	3	4
(イ) 受験に関する指導	1	2	3	4
(ウ) 学ぶ意欲を高めること	1	2	3	4
(エ) 家庭学習の指導	1	2	3	4
(オ) 先生たちの教育熱心さ	1	2	3	4
(カ) いじめや子どもどうしのトラブルへの対応	1	2	3	4
(キ) 学校の教育方針や指導状況を保護者に伝えること	1	2	3	4

16. 総合的に見ておこさんが通っている学校に満足していますか。あてはまる番号に一つ〇をつけてください。

1. 満足している
2. まあ満足している
3. あまり満足していない
4. 満足していない

17. あなたは、次のようなことをどの程度していますか。(ア)～(オ)のそれぞれについて、あてはまる番号に一つ〇をつけてください。

	よくする	時々する	あまりしない	まったくしない
(ア) 授業参観への参加	1	2	3	4
(イ) 学級懇談・学年懇談への参加	1	2	3	4
(ウ) 運動会・音楽会などの学校行事への参加	1	2	3	4
(エ) PTA活動への参加	1	2	3	4
(オ) ボランティアでの学校支援 (PTAは除く)	1	2	3	4

18. あなたは、次のような理由で学校での活動に参加することが難しいと感じることはありますか。
 (ア)～(エ)のそれぞれについて、あてはまる番号に一つ○をつけてください。

	ある	ない
(ア) 実施時間が、都合が悪い	1	2
(イ) 家族の事情(きょうだいの面倒や家族の介護など)で忙しい	1	2
(ウ) 仕事を休むことが難しい	1	2
(エ) 学校や先生に歓迎されていると感じない	1	2

次に、地域との関わりについておたずねします。

19. 次のことは、あなたにどれくらいあてはまりますか。
 (1)～(2)のそれぞれについて、あてはまる番号に一つ○をつけてください。

(1) 地域の行事にお子さんと一緒に参加していますか。

1. よく参加している
2. 時々参加している
3. あまり参加していない
4. まったく参加していない

(2) 地域に子育てや教育について悩みを相談できる友人・知人はいますか。

1. たくさんいる
2. ある程度いる
3. あまりいない
4. まったくいない

つぎに、あなた自身についておたずねします。

20. あなたの現在のお住まいは、この中のどれにあたりますか。
あてはまる番号に一つ〇をつけてください。

1. 持ち家（親などが持ち主の場合も含む）
2. 民間の賃貸住宅
3. 社宅・公務員住宅等の給与住宅
4. 公社・公団等の公営の賃貸住宅
5. その他（具体的に)

21. あなたの家には、次のものがありますか。

(ア)～(サ)のそれぞれについて、あてはまる番号に一つ〇をつけてください。

	ある	ない
(ア) 子ども用のコンピュータまたはタブレット	1	2
(イ) 家族で共有しているコンピュータまたはタブレット	1	2
(ウ) 子ども用の勉強づくえ	1	2
(エ) 子ども部屋	1	2
(オ) インターネット	1	2
(カ) 子ども用の携帯電話	1	2
(キ) ゲーム機（PlayStation®、Wii®、Xbox® など）	1	2
(ク) ピアノ	1	2
(ケ) D V D プレイヤー	1	2
(コ) 食器洗い機	1	2
(サ) 定期購読している新聞	1	2

22. あなたは、一週間のうち、自宅で次のことをどのくらいしますか。

(ア)～(オ)のそれぞれについて、あてはまる番号に一つ〇をつけてください。

	ほぼ毎日	週に3～4日	週に1～2日	ほとんどない
(ア) テレビでニュース番組を見る	1	2	3	4
(イ) 本（マンガや雑誌はのぞきます）を読む	1	2	3	4
(ウ) 新聞を読む	1	2	3	4
(エ) 読んだ本（マンガや雑誌はのぞきます）の内容について子どもと話を	1	2	3	4
(オ) パソコン（タブレット端末を含む）を使う	1	2	3	4

23. 次のようなAとBの2つの意見について、あなたの考えに近いのはどちらですか。

(ア)～(オ)のそれぞれの項目について、あてはまる番号に一つ〇をつけてください。

- (ア) A: どんな地域でも同じ教育を受けられるよう、教育内容は国が定めたほうがよい
B: 地域による違いがあっても、教育内容は都道府県や市区町村が決めたほうがよい

どちらかといえば どちらかといえば
Aに近い Aに近い Bに近い Bに近い
1 _____ 2 _____ 3 _____ 4

- (イ) A: 学校同士が競争すれば、学校の中に活気が生まれて教育は良くなる
B: 学校同士が競争すると、成果を上げるために無理をして教育は悪くなる

どちらかといえば どちらかといえば
Aに近い Aに近い Bに近い Bに近い
1 _____ 2 _____ 3 _____ 4

- (ウ) A: 子どもの個性に応じて学習内容をもっと選択できるようにするのがよい
B: 義務教育では、すべての子どもに共通する内容を教えるのがよい

どちらかといえば どちらかといえば
Aに近い Aに近い Bに近い Bに近い
1 _____ 2 _____ 3 _____ 4

- (エ) A: 学校教育を充実させるために税金が増えるのは仕方がない
B: 学校教育は現状のままでよいので、税金は増やさないほうがよい

どちらかといえば どちらかといえば
Aに近い Aに近い Bに近い Bに近い
1 _____ 2 _____ 3 _____ 4

- (オ) A: 教育予算は、所得の低い家庭の子どもにたいして手厚く使われるほうがよい
B: 教育予算は、全体に等しく使われるほうがよい

どちらかといえば どちらかといえば
Aに近い Aに近い Bに近い Bに近い
1 _____ 2 _____ 3 _____ 4

24. あなたは煙草を吸いますか。あてはまる番号に一つ○をつけてください。

1. 現在吸っている
2. 以前は吸っていたがやめた
3. ほとんど／まったく吸ったことはない

25. あなたは、普段お酒を飲みますか。あてはまる番号に一つ○をつけてください。

1. ほとんど毎日
2. 週に数回
3. 週に1回程度
4. 月に1回程度
5. 年に数回
6. 年に1回程度
7. まったく飲まない

26. あなたは、以下の(ア)～(カ)のことについて、どのくらい満足していますか。

	満足	まあ満足	やや不満	不満
(ア) 住んでいる地域	1	2	3	4
(イ) 家庭生活	1	2	3	4
(ウ) 現在の家計の状態	1	2	3	4
(エ) 友人関係	1	2	3	4
(オ) 健康状態	1	2	3	4
(カ) 子育て	1	2	3	4

最後に、ご家族のことについておたずねします。

27. ご家族のことについておたずねします。

(ア)～(サ)のそれぞれについて、あてはまる番号に一つ○をつけてください。

(ア) お子さんの父親(または父親にかわる方)の年齢を教えてください。

(いらっしやらない場合は回答不要です)

1. 24歳以下
2. 25～29歳
3. 30～34歳
4. 35～39歳
5. 40～44歳
6. 45～49歳
7. 50～59歳
8. 60歳以上

(イ) お子さんの母親（または母親にかわる方）の年齢を教えてください。

（いらっしやらない場合は回答不要です）

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 24歳以下 | 2. 25～29歳 | 3. 30～34歳 | 4. 35～39歳 |
| 5. 40～44歳 | 6. 45～49歳 | 7. 50～59歳 | 8. 60歳以上 |

(ウ) お子さんの父親（または父親にかわる方）の出身地方はどちらですか。

（いらっしやらない場合は回答不要です）

■	■
■	■
■	■
■	■
■	■

(エ) お子さんの母親（または母親にかわる方）の出身地方はどちらですか。

（いらっしやらない場合は回答不要です）

■	■
■	■
■	■
■	■
■	■

(オ) お子さんの父親（または父親にかわる方）の最終学歴についておたずねします。

（いらっしやらない場合は回答不要です）

- | | |
|----------------|--------|
| 1. 小学校・中学校 | 5. 大学 |
| 2. 高等学校 | 6. 大学院 |
| 3. 専門学校・各種学校 | 7. その他 |
| 4. 短期大学・高等専門学校 | |

(カ) お子さんの母親（または母親にかわる方）の最終学歴についておたずねします。
 (いらっしゃらない場合は回答不要です)

- | | |
|----------------|--------|
| 1. 小学校・中学校 | 5. 大学 |
| 2. 高等学校 | 6. 大学院 |
| 3. 専門学校・各種学校 | 7. その他 |
| 4. 短期大学・高等専門学校 | |

(キ) あなたのご家族全体の世帯収入（税込み年収）は次のどれにあてはまりますか。

- | | |
|--------------------|-------------------------|
| 1. 200万円未満 | 7. 700万円以上～800万円未満 |
| 2. 200万円以上～300万円未満 | 8. 800万円以上～900万円未満 |
| 3. 300万円以上～400万円未満 | 9. 900万円以上～1,000万円未満 |
| 4. 400万円以上～500万円未満 | 10. 1,000万円以上～1,200万円未満 |
| 5. 500万円以上～600万円未満 | 11. 1,200万円以上～1,500万円未満 |
| 6. 600万円以上～700万円未満 | 12. 1,500万円以上 |

(ク) お子さんの父親（または父親にかわる方）の現在の仕事について教えてください。
 (いらっしゃらない場合は回答不要です)

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 常勤職員 | } (ケ) へ進んでください |
| 2. 非常勤職員 | |
| 3. 自営業・家事手伝い | |
| 4. パート・アルバイト | |
| 5. その他（具体的に：) | |
| 6. 無職 | → (コ) へ進んでください |

(ケ) お子さんの父親（または父親にかわる方）の現在の主な仕事は何ですか。
 (14-15ページの「職種分類表」を参照してください) (いらっしゃらない場合は回答不要です)

- | | |
|---------------|------------------|
| 1. 管理的な仕事 | 7. 農林漁業 |
| 2. 専門的・技術的な仕事 | 8. 生産工程の仕事 |
| 3. 事務的な仕事 | 9. 輸送・機械運転の仕事 |
| 4. 販売の仕事 | 10. 建設・採掘の仕事 |
| 5. サービスの仕事 | 11. 運搬・清掃・包装等の仕事 |
| 6. 保安の仕事 | 12. その他（具体的に) |

(コ) お子さんの母親（または母親にかわる方）の現在の仕事について教えてください。

（いらっしやらない場合は回答不要です）

1. 常勤職員
 2. 非常勤職員
 3. 自営業・家事手伝い
 4. パート・アルバイト
 5. その他（具体的に：)
 6. 無職
- (サ) へ進んでください
- これで質問は終わりです

(サ) お子さんの母親（または母親にかわる方）の現在の主な仕事は何ですか。

（14-15頁の「職種分類表」を参照してください）（いらっしやらない場合は回答不要です）

1. 管理的な仕事
2. 専門的・技術的な仕事
3. 事務的な仕事
4. 販売の仕事
5. サービスの仕事
6. 保安の仕事
7. 農林漁業
8. 生産工程の仕事
9. 輸送・機械運転の仕事
10. 建設・採掘の仕事
11. 運搬・清掃・包装等の仕事
12. その他（具体的に)

これで質問は終わりです。ご協力いただき、ありがとうございました。

このアンケート用紙は、同封されている提出用封筒に入れて封をし、

お子さんを通じて、締切までに学校へご提出ください。

しよく しゆ ぶんるいひよう
職 種 分 類 表 I

※完全にあてはまるものがない場合は、近いと思われるものを選んでください。

職 種	職 種 内 容
1 管理的な仕事	課（課担当を含む）以上の組織の管理的仕事に従事する者をいいます。たとえば、部長、課長、支店長、工場長など
2 専門的・技術的な仕事	高度の専門的水準において、科学的知識を応用した技術的な仕事に従事する者及び医療・法律・芸術その他の専門的性質の仕事に従事する者をいいます。 たとえば、科学研究者、機械・電気技術者、一級建築士、プログラマー、システムエンジニア、医師、薬剤師、看護師、准看護師、栄養士、福祉相談員、保育士、介護支援相談員、公認会計士、税理士、教員、記者、編集者、デザイナー、写真家、速記者など
3 事務的な仕事	一般に課長（課長担当職を含む）以上の職務にあるものの監督を受けて、庶務・文書・人事・会計・調査・企画・運輸・通信・生産関連・営業販売・外勤に関する事務及び事務用機械の操作の仕事に従事する者をいいます。 たとえば、一般事務員、銀行の窓口事務員、旅行会社カウンター係、案内係、フロント、集金人、メーター検針員、オペレーター、有料道路料金係、出改札係など
4 販売の仕事	商品（サービスを含む）・不動産・証券などの売買、売買の仲立・取次・代理などの仕事、保険外交、商品の売買・製造などに関する取引上の勧誘・交渉・受注の仕事に従事する者をいいます。 たとえば、一般商店・コンビニエンスストア・スーパー・デパートなどの販売店員、レジ係、商品販売外交員、保険外交員、銀行外交員、スーパー店長、新聞拡張員、不動産仲介人など
5 サービスの仕事	理容・美容・クリーニング・調理・接客・娯楽など個人に対するサービス、居住施設・ビルなどの管理サービス及びその他の仕事に従事する者をいいます。 たとえば、理容・美容師、クリーニング工、調理人、ウェイター、ウェイトレス、接客係、ホームヘルパー、ベビーシッター、駐車場・ビル管理人、寮管理人、ツアーコンダクター、ビデオレンタル店員、広告ビラ配達人など
6 保安の仕事	社会・個人・財産の保護、法と秩序の維持などの仕事に従事する者をいいます。 たとえば、守衛、警備員、監視員、建設現場誘導員など
7 農林漁業	農・林・漁業の従事者をいいます。 たとえば、農業、林業、漁師、園芸士、栽培、酪農など

しよく しゆ ぶんにひよう
職 種 分 類 表 II

※完全にあてはまるものがない場合は、近いと思われるものを選んでください。

8	生産工程の仕事	<p>生産設備の制御・監視の仕事、機械・器具・手動具などを用いて原料・材料を加工する仕事、各種の機械器具を組立・調整・修理・検査する仕事、製版・印刷・製本の作業、生産工程で行われる仕事に関連する仕事及び生産に類似する技能的な仕事に従事する者をいいます。</p> <p>たとえば、生産設備制御・監視員、機械組立設備制御・監視員、製版製造・加工処理工、機械組立工、機械修理工、自動車整備工、製品検査工など</p>
9	輸送・機械運転の仕事	<p>機関車・電車・自動車・船舶・航空機などの運転・操縦の仕事、及びその他の関連する仕事、並びに定置機関・機械及び建設機械を操作する仕事に従事する者をいいます。</p> <p>たとえば、電車運転士、バス運転士、営業用乗用自動車運転者、貨物自動車運転者、船長、航海士・運航士、水先人、船舶機関長・機関士、航空機操縦士など</p>
10	建設・採掘の仕事	<p>建設の仕事、電気工事に係る作業を行う仕事、ダム・トンネルの採掘などの仕事、鉱物の探査・試掘・採掘・採取・選鉱の仕事に従事する者をいいます。(ただし、建設機械を操作する仕事に従事する者は「輸送・機械運転の仕事」となります。)</p> <p>たとえば、型枠大工、とび職、鉄筋工、大工、れんが積工、ブロック積工、タイル張り工、屋根ふき工、左官、畳工、配管工、送電線電工、外線電工、通信線架線工、電信機据付工、電気工事従事者、土木従事者、坑内探鉱員、石切工、砂利採取員など</p>
11	運搬・清掃・包装等の仕事	<p>主に体を使って行う定型的な作業のうち、運搬・配達・梱包・清掃・包装等に従事する者をいいます。</p> <p>たとえば、郵便・電報外務員、船内・沿岸荷役従事者、陸上荷役・運搬従事者、倉庫現場員、配達員、荷造工、清掃従事者、包装工など</p>
12	その他の仕事	<p>上記以外の職種に従事する者をいいます。</p>

平成 28 年度 文部科学省委託事業

(学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究)

学校アンケート調査

お願い

本調査は、平成 28 年度の文部科学省委託事業（学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究）の一環として、小学校あるいは中学校の校長先生に、各学校の教育活動や、学校の人的・物的整備の状況について尋ねるものです。アンケートの結果は、同時に実施する児童生徒アンケート調査・保護者アンケート調査、及び全国学力・学習状況調査等のデータと合わせて分析し、国の教育施策に役立てることを目的としています。

調査の趣旨をご理解いただき、アンケートへのご協力をお願いします。

- ◆調査にご協力いただける場合は、最初に調査協力承諾のサインをお願いします。
- ◆すべてのアンケート調査への回答は、統計的に処理され、個人を特定することはございません。
- ◆それぞれの質問について、あてはまるものや学校の状況に最も近いものを選んで、あてはまる番号に○をつけてください。
- ◆アンケートに回答いただきましたら、同封の提出用封筒に入れ、封をしてください。

調査企画： 国立大学法人福岡教育大学

※私は、平成 28 年度文部科学省委託事業（学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究）による、学校アンケート調査／児童生徒アンケート調査の実施に協力します。

学校名 _____

学校長名 _____

学校の諸特徴について

5. あなたの学校では、就学援助を受けている児童生徒は、何パーセントくらいいますか。
あてはまる番号に一つ○をつけてください。

1. 在籍していない
2. 5%未満
3. 5%以上、10%未満
4. 10%以上、15%未満
5. 15%以上、20%未満
6. 20%以上、30%未満
7. 30%以上、50%未満
8. 50%以上、70%未満
9. 70%以上、90%未満
10. 90%以上

6. あなたの学校では、日本語を母語としない児童生徒は、何パーセントくらいいますか。
あてはまる番号に一つ○をつけてください。

1. 在籍していない
2. 5%未満
3. 5%以上、10%未満
4. 10%以上、20%未満
5. 20%以上

7. あなたの学校がある地域の平均所得水準として、次のどれがもっともよくあてはまりますか。
あてはまる番号に一つ○をつけてください。

- 
- 
- 
- 
- 

8. あなたの学校では、現在、質の高い指導を行う上で、以下のことがどの程度妨げになっていますか。

(ア)～(ケ)のそれぞれについて、あてはまる番号に一つ○をつけてください。

	まったく妨げに なっていない	あまり妨げに なっていない	いくらか妨げに なっている	非常に妨げに なっている
(ア) 資格を持つ教員や有能な教員の不足	1	2	3	4
(イ) 特別な支援を要する児童生徒への 指導能力をもつ教員の不足	1	2	3	4
(ウ) 教材が不足している、あるいは 適切でない	1	2	3	4
(エ) 教育用コンピュータが不足している、 あるいは適切でない	1	2	3	4
(オ) インターネット接続環境が不十分である	1	2	3	4
(カ) 図書室の教材が不足している、あるいは 適切でない	1	2	3	4
(キ) 支援職員の不足	1	2	3	4
(ク) 校内研修を行う時間の不足	1	2	3	4
(ケ) 教員と学校の課題について話す 時間の不足	1	2	3	4

9. あなたの学校に対する保護者の期待をもっとも特徴づけているのは、次のうちどれですか。

あてはまる番号に一つ○をつけてください。

1. 児童生徒の学力水準を高めていくことを本校に期待する圧力を、常に多くの保護者から受けている
2. 児童生徒の学力水準を高めていくことを本校に期待する圧力を、少数の保護者から受けている
3. 児童生徒の学力水準を高めていくことを本校に期待する圧力を、保護者から受けることはほとんどない

学校の雰囲気について

10. あなたの学校では、次のそれぞれの特徴が、どの程度あると考えられますか。

(ア)～(ケ)のそれぞれについて、あてはまる番号に一つ○をつけてください。

	非常に高い	高い	中程度	低い	非常に低い				
(ア) 仕事に対する教員の満足度	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(イ) 学習指導要領の目標の達成度	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(ウ) 学校の教育目標についての 教員の理解度	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(エ) 学校の教育目標についての 教員の達成度	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(オ) 児童生徒の成績に対する 教員の期待度	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(カ) 児童生徒の学習に対する 保護者の支援	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(キ) 学校の活動への保護者の参加	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(ク) 学校の備品を大切にしようとする 児童生徒の意識	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(ケ) 学校で良い成績をとりたいという 児童生徒の意欲	1	—	2	—	3	—	4	—	5

11. あなたの学校では、次のことがどのくらい問題になっていますか。

(ア)～(シ)のそれぞれについて、あてはまる番号に一つ○をつけてください。

	問題ではない	小さな問題	中くらいの問題	深刻な問題			
(ア) 遅刻	1	—	2	—	3	—	4
(イ) 不登校	1	—	2	—	3	—	4
(ウ) 忘れ物	1	—	2	—	3	—	4
(エ) 授業妨害	1	—	2	—	3	—	4
(オ) カンニング	1	—	2	—	3	—	4
(カ) 教職員に対する反抗的態度	1	—	2	—	3	—	4
(キ) 建物や備品などの破壊	1	—	2	—	3	—	4
(ク) 窃盗	1	—	2	—	3	—	4
(ケ) 児童生徒同士のけんか	1	—	2	—	3	—	4
(コ) いじめ	1	—	2	—	3	—	4
(サ) 保護者からのクレーム	1	—	2	—	3	—	4
(シ) 地域住民からのクレーム	1	—	2	—	3	—	4

12. あなたの学校では、以下のことがどの程度あてはまると思いますか。

(ア)～(カ)のそれぞれについて、あてはまる番号に一つ○をつけてください。

	まったく		非常に良く	
	あてはまらない	あてはまらない	あてはまる	あてはまる
(ア) 教職員は学校教育に関する信念を共有している	1	2	3	4
(イ) 学校と地域コミュニティとの間で緊密な連携を図っている	1	2	3	4
(ウ) 教職員は困難な問題についてオープンに話し合える	1	2	3	4
(エ) 同僚の考え方を相互に尊重している	1	2	3	4
(オ) 成功を共有する文化がある	1	2	3	4
(カ) 教員と児童生徒の関係が良好である	1	2	3	4

リーダーシップについて

13. 今年度、あなたの学校で、あなたは以下のことをどのくらいの頻度で行いましたか。

(ア)～(ク)のそれぞれについて、あてはまる番号に一つ○をつけてください。

	なし	時々	頻繁に	非常に頻繁に
(ア) 学級内の規律の問題を教員と協力して解決した	1	2	3	4
(イ) 授業を観察した	1	2	3	4
(ウ) 新たな指導実践を開発するための教員間の協力を支援する取組を行った	1	2	3	4
(エ) 教員が指導能力の向上に責任を持つような具体的な取組を行った	1	2	3	4
(オ) 教員が担当する児童生徒の学習成果について責任を感じるよう具体的な取組を行った	1	2	3	4
(カ) 保護者に学校と児童生徒の成果についての情報を提供した	1	2	3	4
(キ) 学校事務に関する手順や報告における間違いをチェックした	1	2	3	4
(ク) 他校の校長と協働した	1	2	3	4

14. あなたの学校では、以下のことがどの程度あてはまると思われますか。

(ア)～(オ)のそれぞれについて、あてはまる番号に一つ○をつけてください。

	まったく		非常に良く	
	あてはまらない	あてはまらない	あてはまる	あてはまる
(ア) 教職員が、学校的意思決定に積極的に 意見を述べる機会を提供している	1	2	3	4
(イ) 保護者が、学校的意思決定に積極的に 意見を述べる機会を提供している	1	2	3	4
(ウ) 児童生徒が、学校的意思決定に積極的に 意見を述べる機会を提供している	1	2	3	4
(エ) 重要な意思決定は校長自身が行う	1	2	3	4
(オ) お互いに助け合う協力的な学校文化がある	1	2	3	4

15. 今年度、学校長としてのあなたの役割の中で、次のような学校の統率を図る活動に、どれくらいの時間を費やしましたか。(ア)～(サ)のそれぞれについて、あてはまる番号に一つ○をつけてください。

	時間を 費やしていない		ある程度の時間を 費やした		たくさんの時間を 費やした	
(ア) 学校の教育ビジョンや目標の推進	1	2	3			
(イ) 学校の教育目標に関する教員の授業における 取組を把握すること	1	2	3			
(ウ) 学校の教育目標を実現するために 児童生徒たちの学習の進み具合を把握すること	1	2	3			
(エ) 学校内の秩序ある雰囲気維持	1	2	3			
(オ) 児童生徒の行動に関して ルールを明確にすること	1	2	3			
(カ) 児童生徒の暴力的な行動への対処	1	2	3			
(キ) 教員間の信頼関係の構築	1	2	3			
(ク) 学級で問題を抱えている教員を支援するための 協議を率先して行うこと	1	2	3			
(ケ) 指導法に疑問や問題を抱えている教員への助言	1	2	3			
(コ) 新たなアイデアを得るために他の学校を訪問したり 教育研究会に出席したりすること	1	2	3			
(サ) 学校長を対象とした専門的研修への参加	1	2	3			

仕事に対する満足度

16. 最後に、あなたが仕事全般についてどのように感じているかをお尋ねします。以下のことはどの程度あてはまりますか。(ア)～(ケ)のそれぞれについて、あてはまる番号に一つ○をつけてください。

		まったく あてはまらない	あてはまらない	あてはまる	非常に良く あてはまる
(ア) 校長の仕事は、悪いことより、良いことの方が明らかに多い	1	—	2	—	3 — 4
(イ) もう一度仕事を選べるとしたら、また校長になりたい	1	—	2	—	3 — 4
(ウ) 可能なら、別の学校に異動したい	1	—	2	—	3 — 4
(エ) 校長になったことを後悔している	1	—	2	—	3 — 4
(オ) 現在の学校での仕事を楽んでいる	1	—	2	—	3 — 4
(カ) 自分の学校を良い職場だと人に勧めることができる	1	—	2	—	3 — 4
(キ) 教職は社会的に高く評価されていると思う	1	—	2	—	3 — 4
(ク) 現在の学校での自分の仕事の成果に満足している	1	—	2	—	3 — 4
(ケ) 全体としてみれば、この仕事に満足している	1	—	2	—	3 — 4

執筆者一覧（執筆順）

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| ・川口 俊明（福岡教育大学） | 序 1章 4章 5章 7章 11章 13章 |
| ・数実 浩佑（大阪大学・大学院生） | 2章 3章 |
| ・土屋 隆裕（統計数理研究所） | 6章 |
| ・知念 渉（大阪大学） | 8章 |
| ・垂見 裕子（早稲田大学） | 9章 |
| ・松岡 亮二（早稲田大学） | 10章 12章 |

平成 28 年度文部科学省委託事業

「学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究」研究報告書

－児童生徒や学校の社会経済的背景を分析するための調査の在り方に関する調査研究－

平成 29 年 3 月 31 日発行

発行者： 川口 俊明

〒811-4192 福岡県宗像市赤間文教町 1-1

福岡教育大学 学校教育講座

Tel: 0940-35-1512

E-mail: kawa5902@fukuoka-edu.ac.jp